

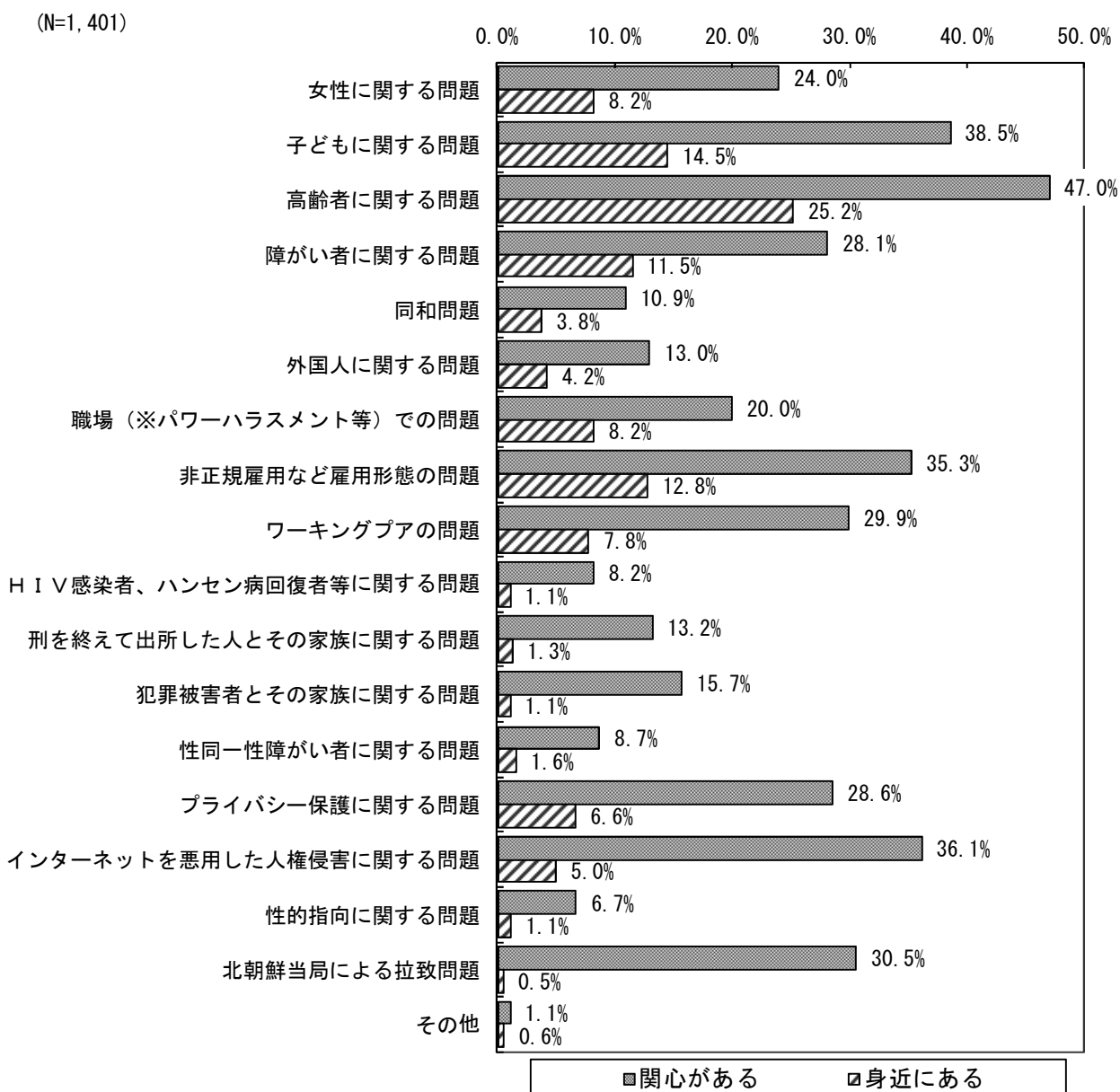
3. 人権問題について

(18) 関心のある人権問題や身近にある人権問題

問 18 つぎの人権問題で、あなたが関心のあるものは何ですか。また、あなたの身近にはどのような人権問題があると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

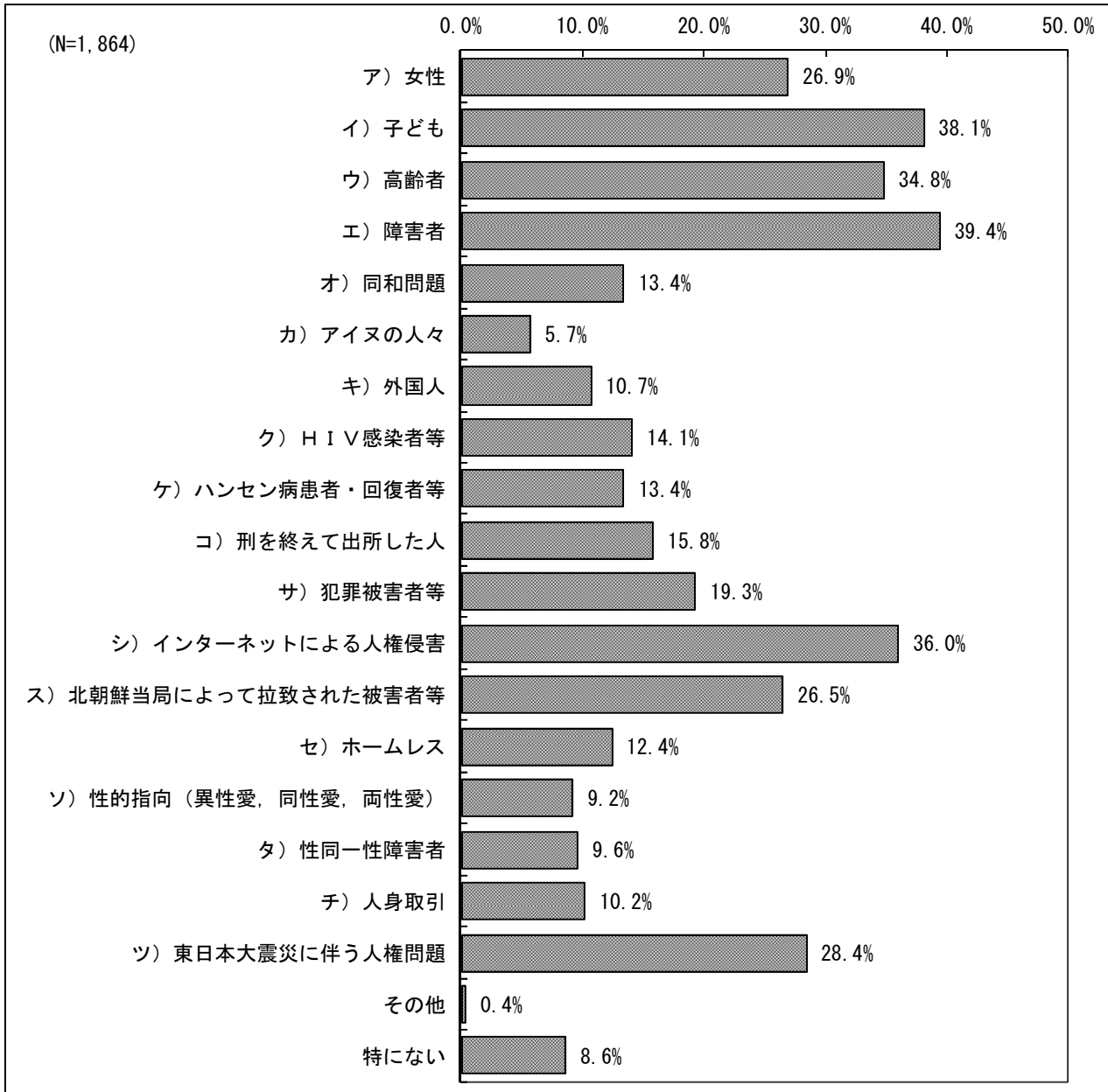
- 関心のある人権問題では、「高齢者に関する問題」の47.0%、「子どもに関する問題」の38.5%、「インターネットを悪用した人権侵害に関する問題」の36.1%、「非正規雇用など雇用形態の問題」の35.3%、「北朝鮮当局による拉致問題」の30.5%が上位となっている。
- 身近にある人権問題では、「高齢者に関する問題」の25.2%、「子どもに関する問題」の14.5%、「非正規雇用など雇用形態の問題」の12.8%、「障がい者に関する問題」の11.5%などが上位となっている。

図表 関心のある人権問題や身近にある人権問題



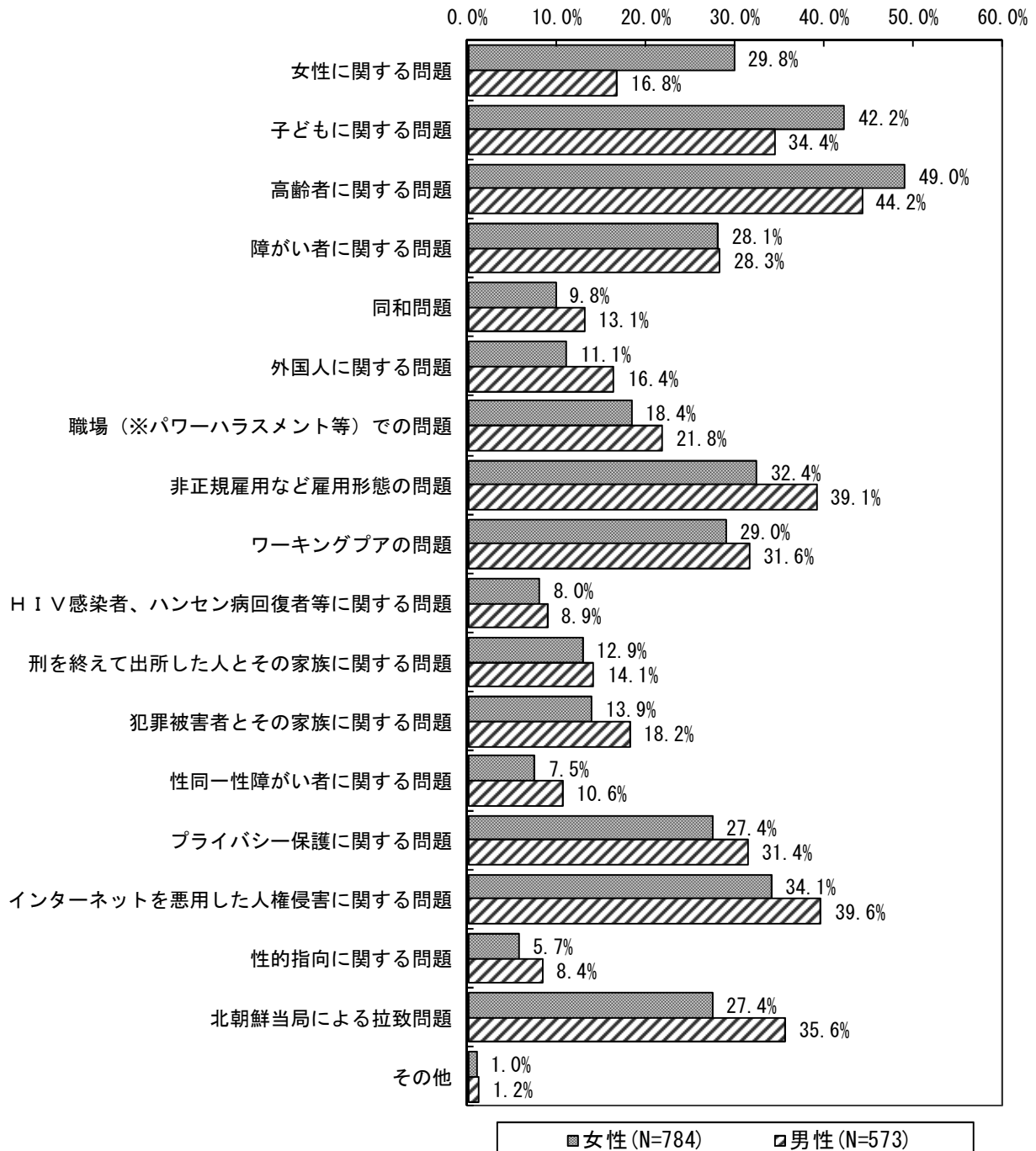
●内閣府調査と比較すると、選択肢の違いがあるため直接的な比較はできないが、上位の項目は、生駒市調査と同様で「障害者」や「子ども」「インターネットによる人権侵害」「高齢者」「女性」などがあがっている。

図表 (参考) 関心のある人権問題や身近にある人権問題
 ー平成 24 年内閣府人権擁護に関する世論調査



●性別にみると、「女性」が関心のある項目としては「女性に関する問題」や「子どもに関する問題」、「高齢者に関する問題」といった身近な家族などに関する問題に対する関心が強く、「男性」は「非正規雇用など雇用形態の問題」や「ワーキングプアの問題」「プライバシー保護に関する問題」「インターネットを悪用した人権侵害に関する問題」「北朝鮮当局による拉致問題」など社会的な問題に関する関心が高くなっている。

図表 関心のある人権問題－性別



●年齢別にみると、「10 歳代」は「インターネットを悪用した人権侵害に関する問題」や「プライバシー保護に関する問題」が上位に挙げられている。「20 歳代」は、「非正規雇用など雇用形態の問題」や「ワーキングプアの問題」が多くなっている。

●「20 歳代～40 歳代」では「子どもに関する問題」が最も多くなっている。また、「50 歳代以上」となると「高齢者に関する問題」が最も関心がある項目となっている。

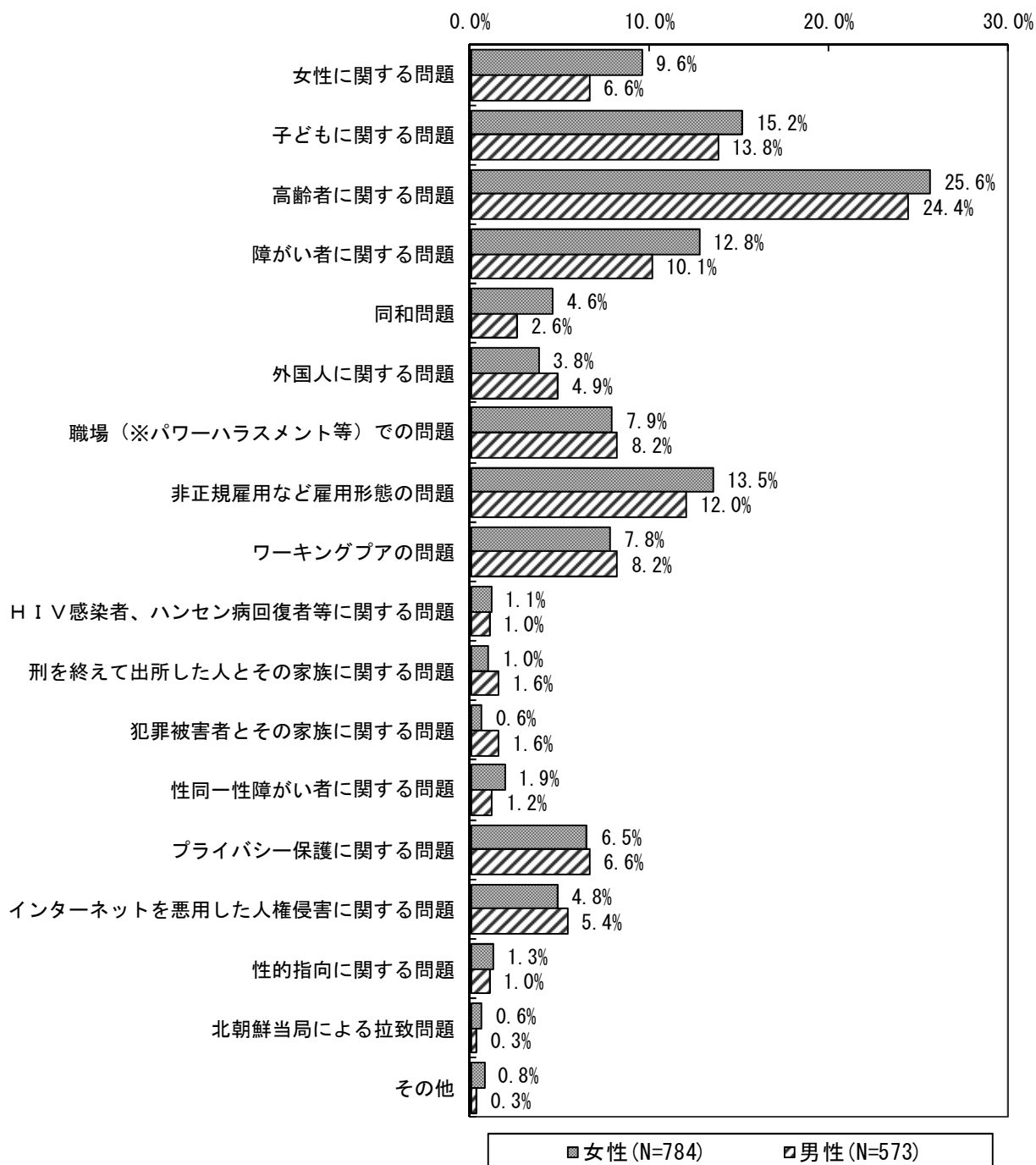
図表 関心のある人権問題－年齢別

	16歳～19歳 (N=53)	20歳～29歳 (N=107)	30歳～39歳 (N=203)	40歳～49歳 (N=216)	50歳～59歳 (N=230)	60歳～69歳 (N=321)	70歳以上 (N=228)
女性に関する問題	32.1%	37.4%	33.0%	27.8%	18.7%	21.5%	14.9%
子どもに関する問題	34.0%	48.6%	59.6%	46.8%	33.0%	29.6%	28.9%
高齢者に関する問題	20.8%	35.5%	39.9%	42.6%	46.5%	56.7%	55.7%
障がい者に関する問題	37.7%	40.2%	30.0%	25.5%	23.0%	28.0%	27.2%
同和問題	22.6%	19.6%	13.8%	10.2%	7.8%	10.3%	8.3%
外国人に関する問題	32.1%	29.9%	10.8%	13.0%	10.4%	12.8%	7.5%
職場(パワーハラスメント等)での問題	18.9%	43.9%	31.0%	21.3%	16.5%	13.4%	9.6%
非正規雇用など雇用形態の問題	26.4%	48.6%	27.1%	32.9%	37.8%	37.7%	35.1%
ワーキングプアの問題	30.2%	42.1%	29.6%	24.1%	34.3%	31.8%	23.7%
HIV感染者、ハンセン病回復者等に関する問題	18.9%	19.6%	7.9%	7.4%	5.2%	7.2%	7.0%
刑を終えて出所した人とその家族に関する問題	28.3%	26.2%	15.3%	9.3%	10.4%	11.5%	11.8%
犯罪被害者とその家族に関する問題	24.5%	24.3%	19.7%	14.4%	13.9%	12.5%	14.5%
性同一性障がい者に関する問題	26.4%	25.2%	8.9%	9.3%	4.8%	6.2%	4.4%
プライバシー保護に関する問題	37.7%	41.1%	21.7%	25.0%	23.0%	34.9%	29.8%
インターネットを悪用した人権侵害に関する問題	43.4%	44.9%	35.0%	41.2%	36.5%	35.2%	29.4%
性的指向(同性愛など)に関する問題	18.9%	23.4%	7.4%	6.0%	3.0%	4.0%	4.4%
北朝鮮当局による拉致問題	24.5%	26.2%	22.7%	25.5%	24.3%	39.6%	41.7%
その他	1.9%	2.8%	1.5%	0.9%	0.4%	0.6%	1.3%

■ 第1位 ■ 第2位 □ 第3位

●性別にみると、身近にある問題としては、「高齢者に関する問題」が男女とも多くなっている。性別による大きな差異は、みられない。

図表 身近にある人権問題－性別



- 身近にある人権問題を年齢別にみると、「高齢者に関する問題」は、どの世代においても上位となっており、世代間を超えた共通の課題となっている。また、「子どもに関する問題」も「60歳代以上」を除く各世代で、身近な問題となっている。
- 「非正規雇用など雇用形態の問題」は「10歳代」を除く各世代で上位の問題とあがっている。

図表 身近にある人権問題－年齢別

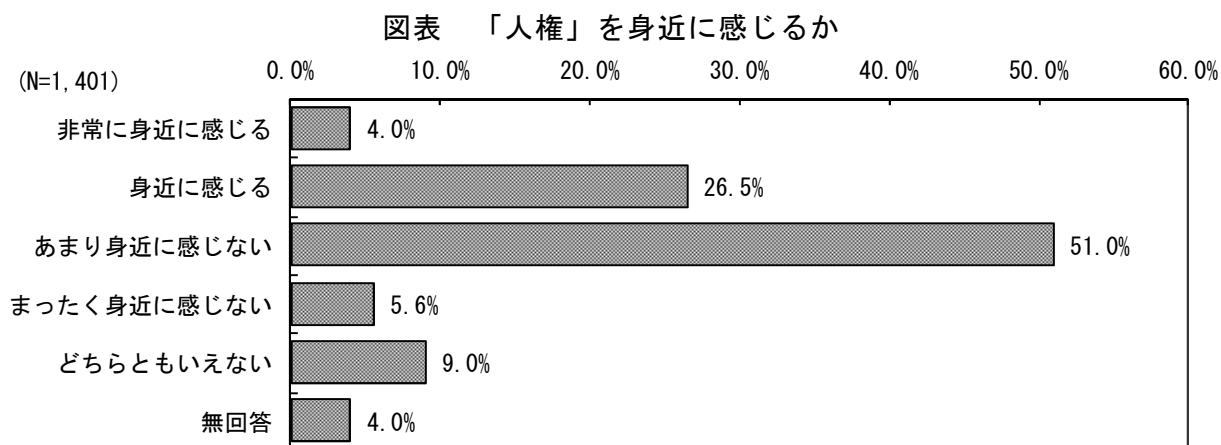
	16歳～19歳 (N=53)	20歳～29歳 (N=107)	30歳～39歳 (N=203)	40歳～49歳 (N=216)	50歳～59歳 (N=230)	60歳～69歳 (N=321)	70歳以上 (N=228)
女性に関する問題	17.0%	15.0%	13.8%	9.7%	7.4%	3.7%	4.4%
子どもに関する問題	20.8%	18.7%	24.1%	21.3%	14.8%	7.2%	6.1%
高齢者に関する問題	26.4%	18.7%	16.7%	22.2%	30.9%	30.8%	24.1%
障がい者に関する問題	26.4%	12.1%	9.9%	12.5%	13.5%	10.3%	8.3%
同和問題	7.5%	4.7%	3.4%	6.0%	2.6%	3.1%	2.6%
外国人に関する問題	11.3%	8.4%	3.4%	7.4%	2.2%	3.1%	2.2%
職場(パワーハラスメント等)での問題	13.2%	15.9%	11.3%	13.0%	10.0%	2.2%	1.8%
非正規雇用など雇用形態の問題	5.7%	22.4%	13.8%	18.1%	14.3%	8.4%	9.2%
ワーキングプアの問題	5.7%	13.1%	9.9%	11.6%	7.4%	6.5%	3.5%
HIV感染者、ハンセン病回復者等に関する問題	5.7%	2.8%	0.5%	1.9%	0.9%	0.3%	0.4%
刑を終えて出所した人とその家族に関する問題	3.8%	2.8%	1.0%	2.3%	0.9%	0.6%	0.4%
犯罪被害者とその家族に関する問題	1.9%	2.8%	0.0%	1.9%	0.9%	0.3%	1.3%
性同一性障がい者に関する問題	1.9%	5.6%	1.5%	3.7%	0.9%	0.6%	0.0%
プライバシー保護に関する問題	7.5%	12.1%	7.9%	9.7%	3.9%	5.0%	4.4%
インターネットを悪用した人権侵害に関する問題	15.1%	8.4%	5.4%	10.2%	3.5%	2.2%	1.8%
性的指向(同性愛など)に関する問題	5.7%	3.7%	1.0%	2.3%	0.0%	0.3%	0.4%
北朝鮮当局による拉致問題	1.9%	1.9%	0.0%	0.9%	0.0%	0.3%	0.4%
その他	0.0%	2.8%	1.5%	0.5%	0.0%	0.3%	0.0%

第1位
 第2位
 第3位

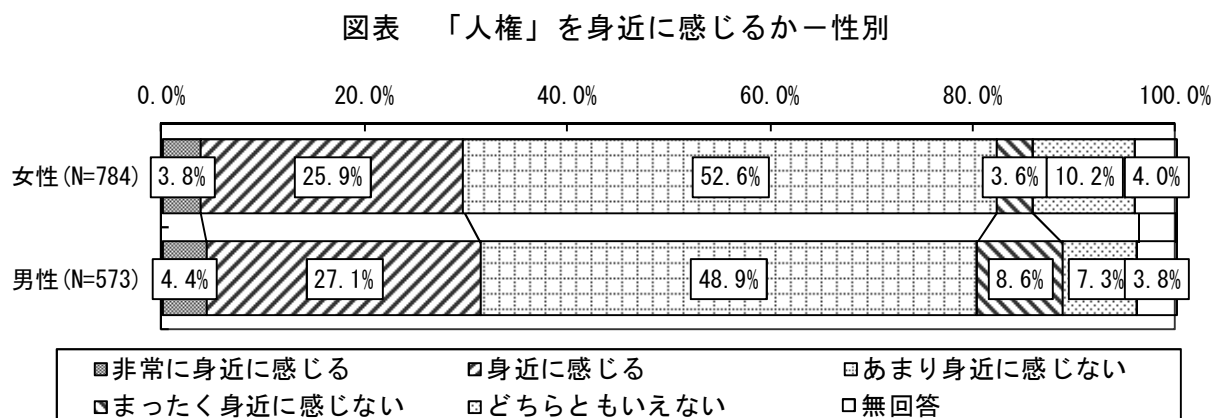
(19) 「人権」を身近に感じるか

問 19 あなたは、「人権」ということをどの程度身近に感じておられますか。
(いずれか1つに○)

- 「人権」ということをどの程度身近に感じているかでは、「あまり身近に感じない」が51.0%と最も多く、次いで「身近に感じる」の26.5%となっている。

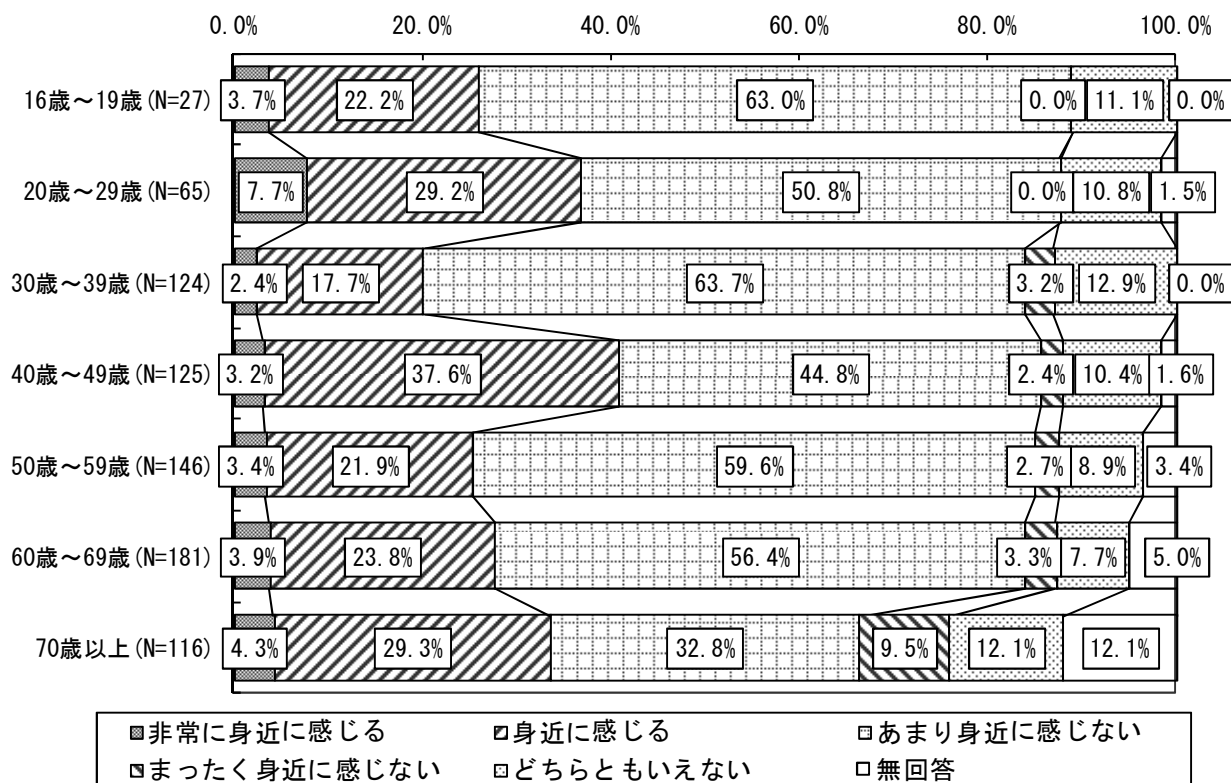


- 性別にみると、男女間での大きな差異はみられなかった。

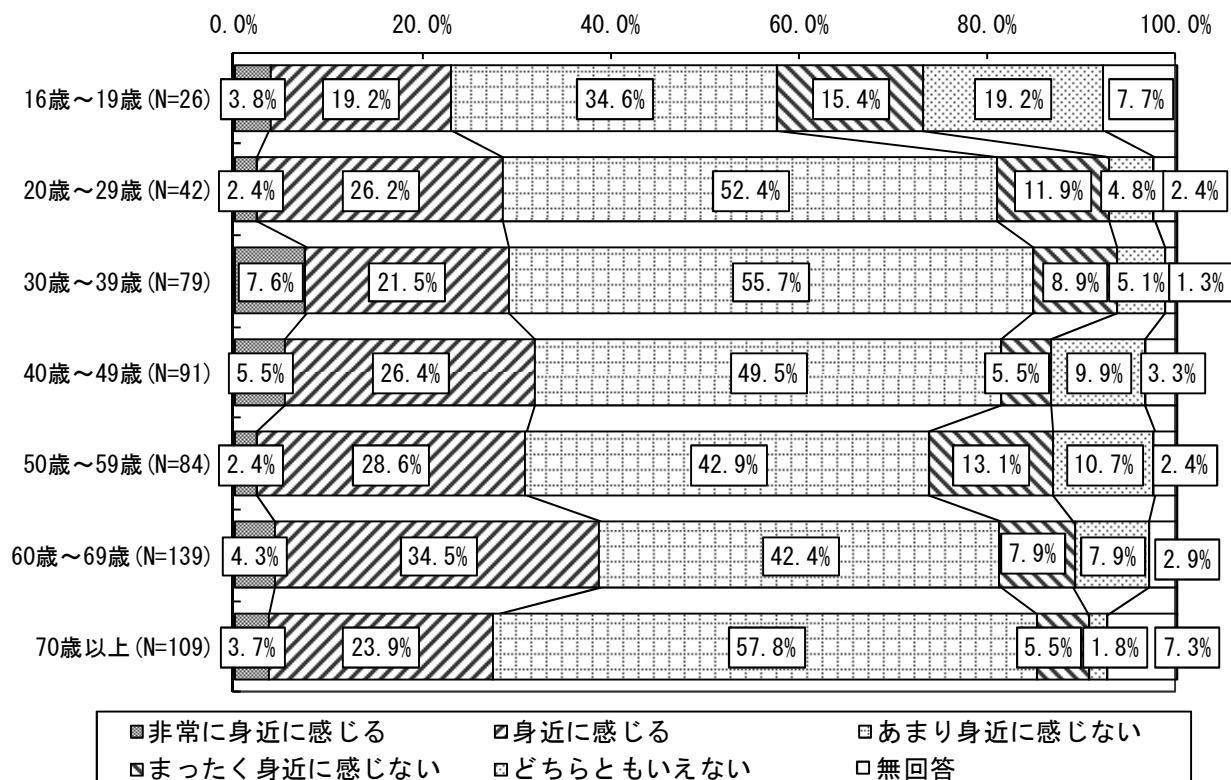


- 性・年齢別にみると、男女ともいずれの年齢でも、「あまり身近に感じない」が多いが、中でも、「女性30歳代」で「非常に身近に感じる」と「身近に感じる」が合わせて20.1%と最も少なくなっている。
- 「女性40歳代」は、「身近に感じる」が37.6%と最も多くなっている。
- 「70歳以上」では、「あまり身近に感じない」が「女性」で32.8%、「男性」で57.8%と格差が大きくなっている。

図表 「人権」を身近に感じるかー女性・年齢別



図表 「人権」を身近に感じるかー男性・年齢別

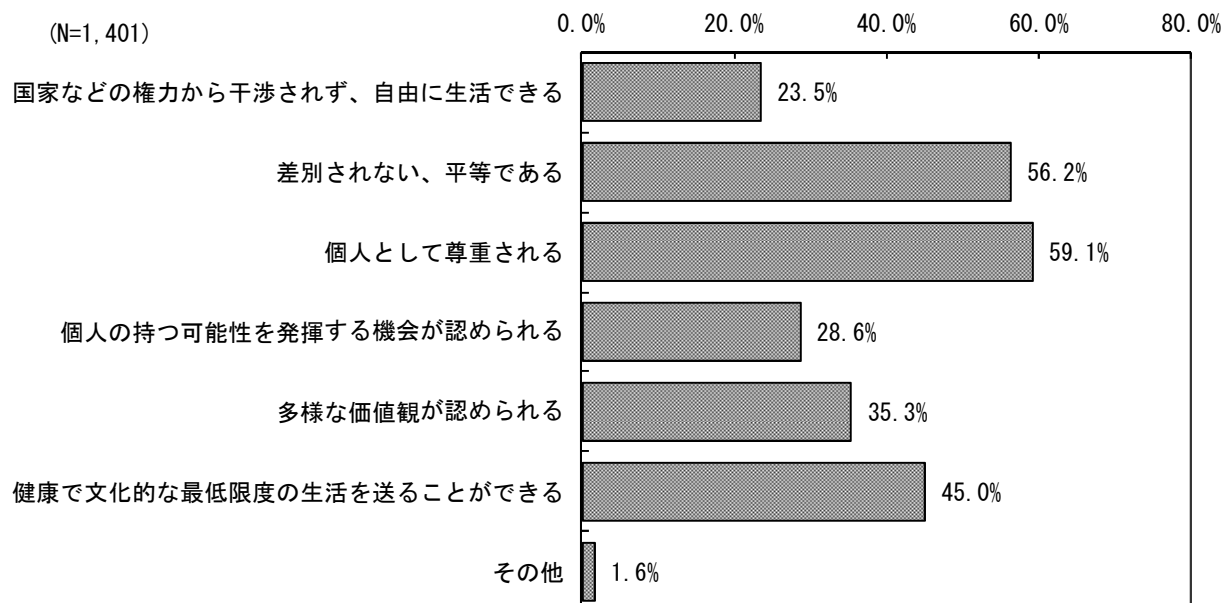


(20) 「人権が尊重される」ことのイメージ

問 20 「人権が尊重される」ということは、どういうことだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

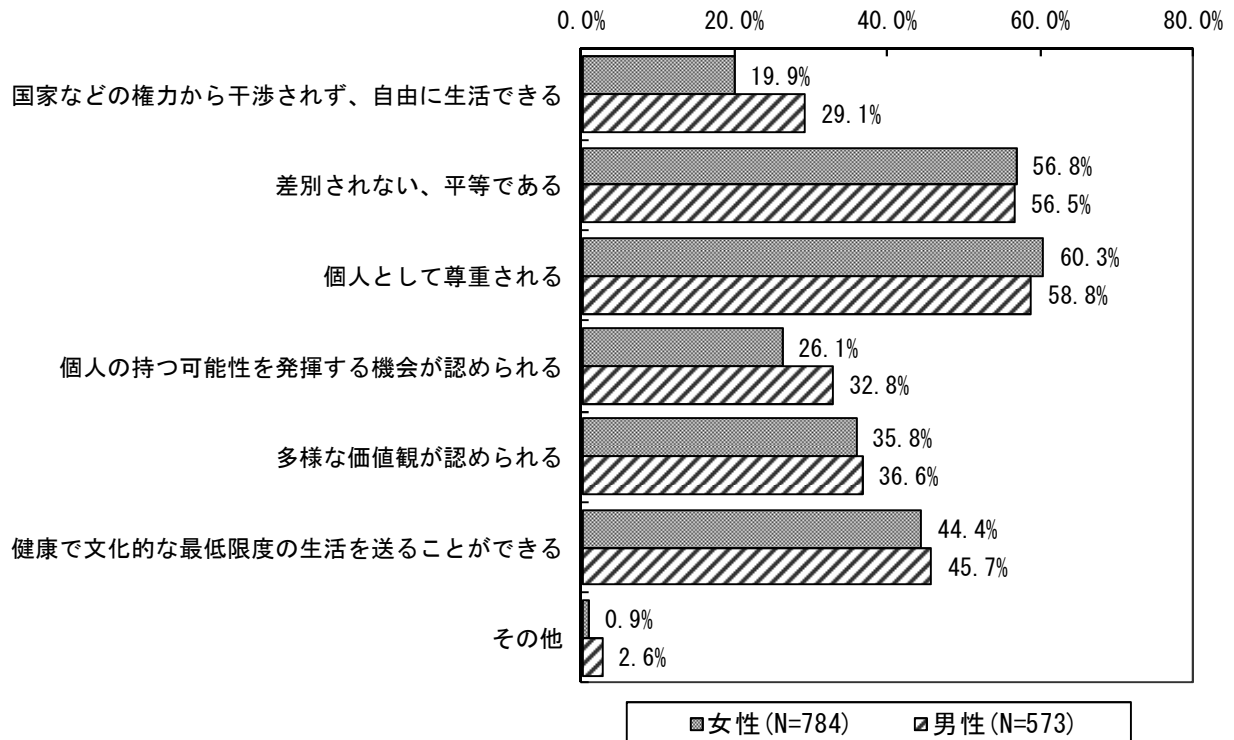
● 「人権が尊重される」ことのイメージでは、「個人として尊重される」が 59.1%、「差別されない、平等である」が 56.2%、「健康で文化的な最低限度の生活を送ることができる」が 45.0% などとなっている。

図表 「人権が尊重される」ことのイメージ



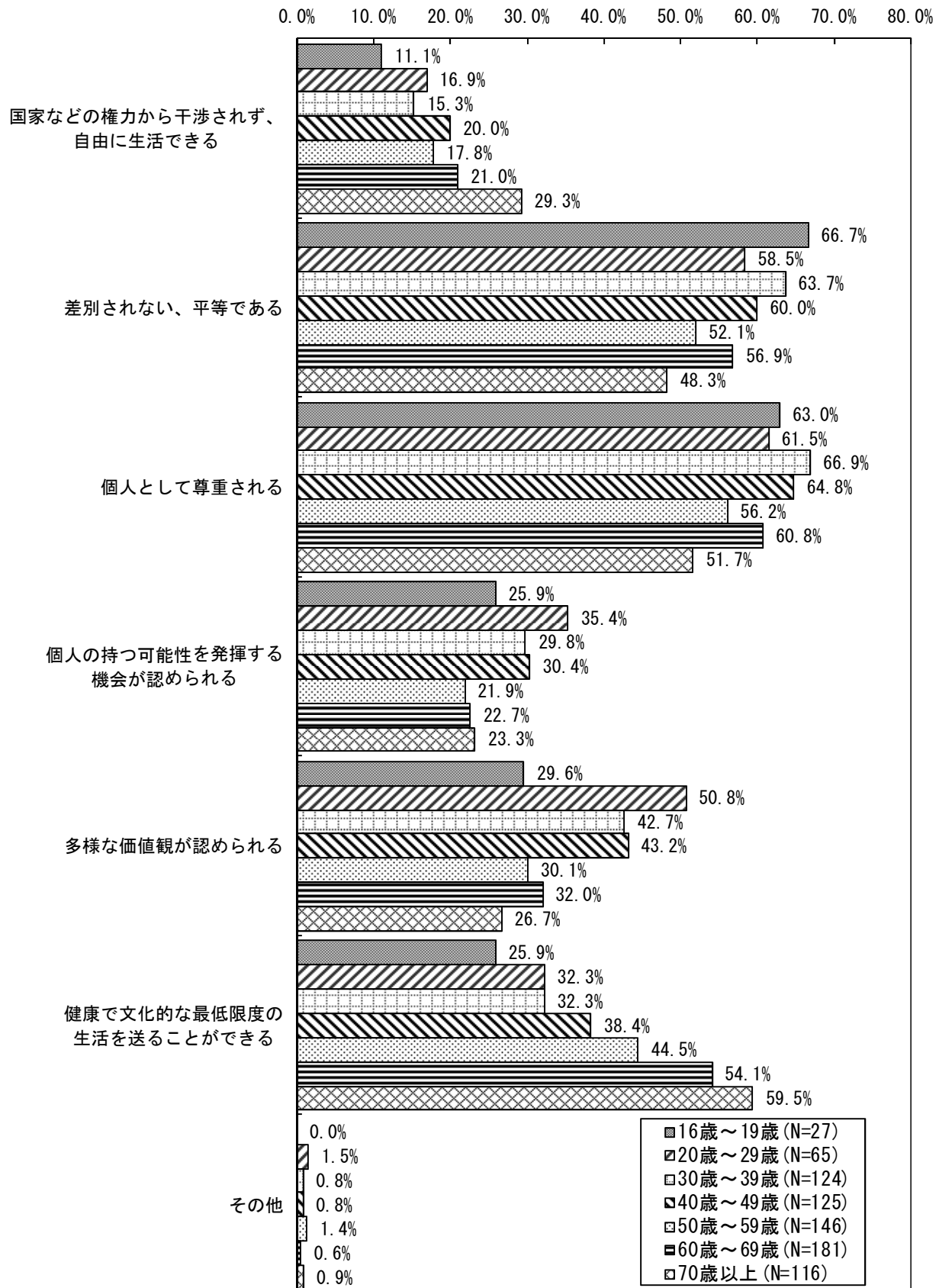
●性別にみると、「国家などの権力から干渉されず、自由に生活できる」では、「男性」が29.1%で「女性」の19.9%を10ポイント近く上回っているが、それ以外の項目ではあまり大きな差異はみられなかった。

図表 「人権が尊重される」ことのイメージ-性別

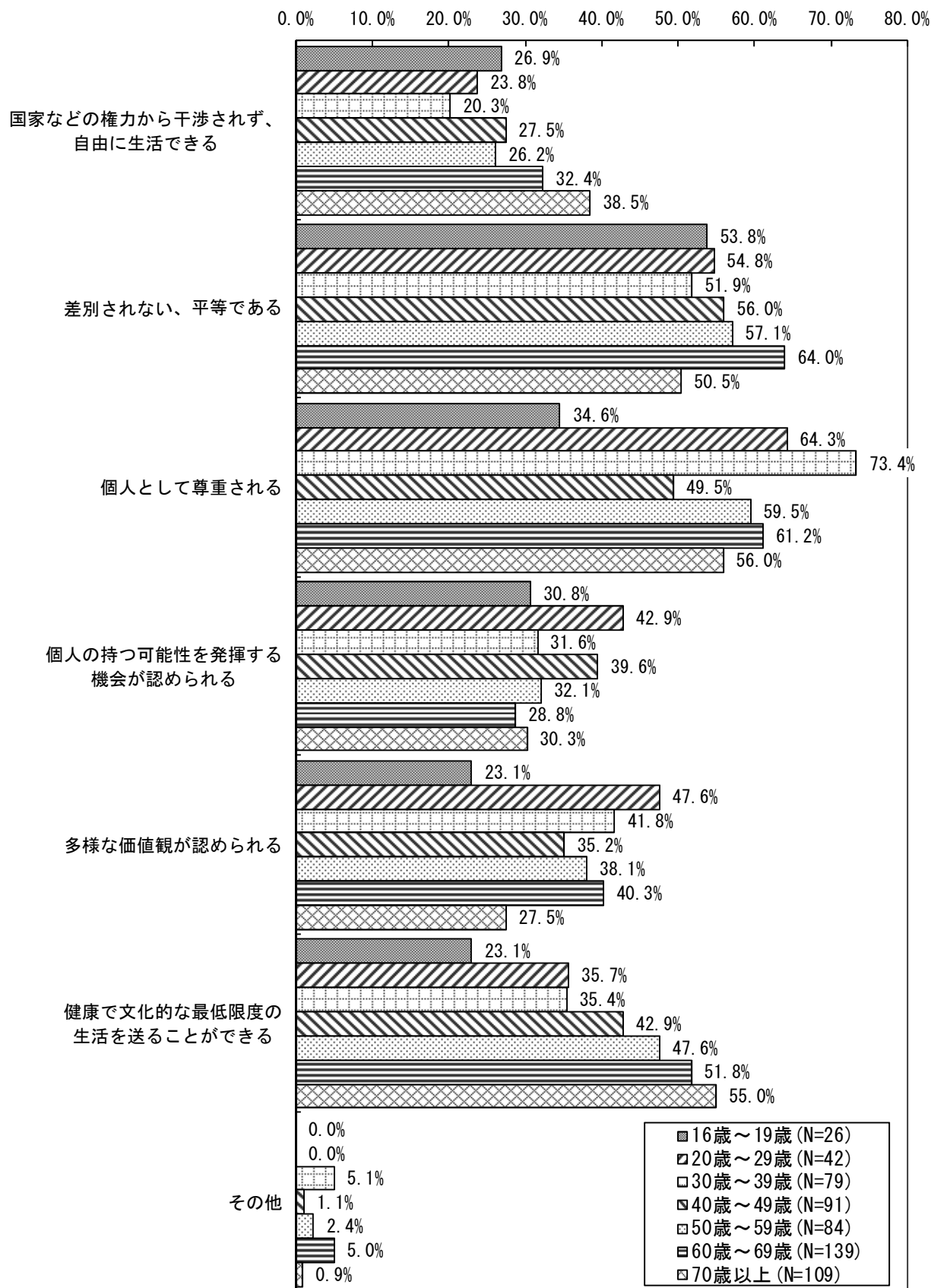


- 性・年齢別にみると、「個人として尊重される」は「男性 10 歳代」で 34.6%と最も少なくなっている。
- 「多様な価値観が認められる」は「女性 10 歳代」で 29.6%、「男性 10 歳代」で 23.1%とそれぞれ最も少なくなっている。

図表 「人権が尊重される」ことのイメージ-女性・年齢別



図表 「人権が尊重される」ことのイメージ-男性・年齢別

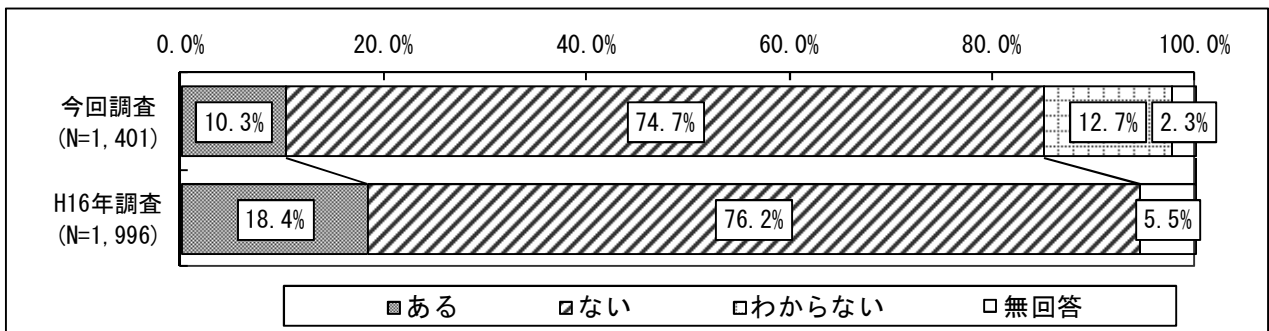


(21) 人権侵害を受けた経験

問 21 あなたは、最近5年間で、自分の人権が侵害されたと思われたことがありますか。
(いずれか1つに○)

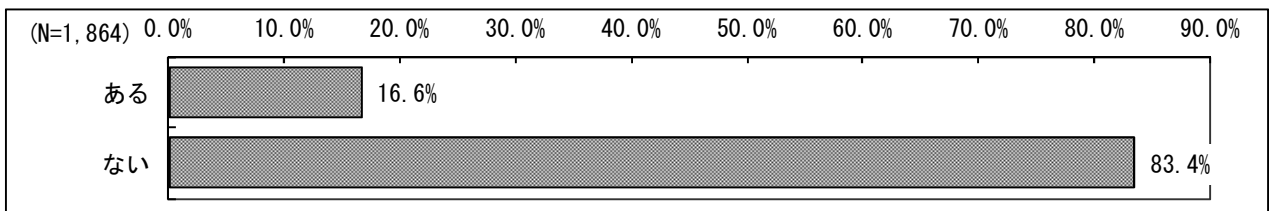
- 人権侵害を受けた経験では、「ない」が74.7%で、「わからない」が12.7%、「ある」が10.3%となる。
- 前回調査と比較すると、「ある」が前回の18.4%から10.3%へと減少しているが、「ない」についても76.2%だったものが、74.7%と僅かであるが減少している。今回初めて設定された「わからない」という回答が12.7%となっている。
- 内閣府調査と比較すると、内閣府調査には「わからない」という選択肢がないため、直接的な比較はむずかしいが、生駒市では「ある」が10.3%で、内閣府調査の16.6%よりも少なくなっている。
- 奈良県人権に関する県民意識調査と比較すると、奈良県調査では「ある」が11.9%と生駒市調査に比べてやや多くなっている。

図表 人権侵害を受けた経験－経年変化

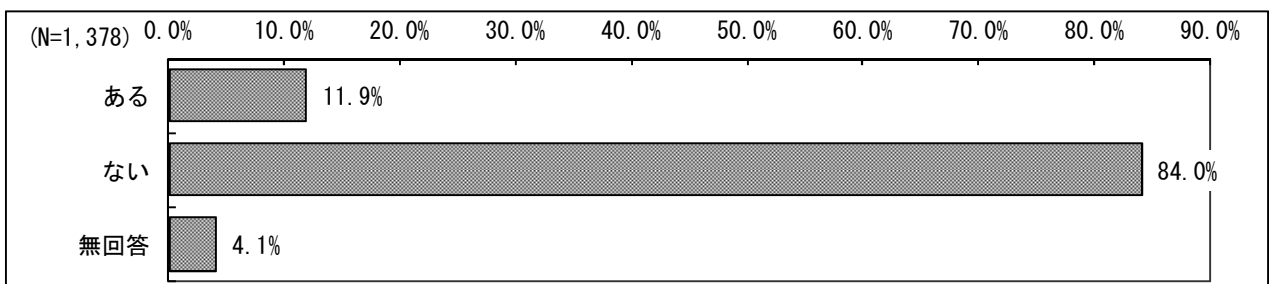


【前回調査では、「わからない」項目は設定されていなかった。】

図表 (参考) 人権侵害を受けた経験－平成24年内閣府人権擁護に関する世論調査

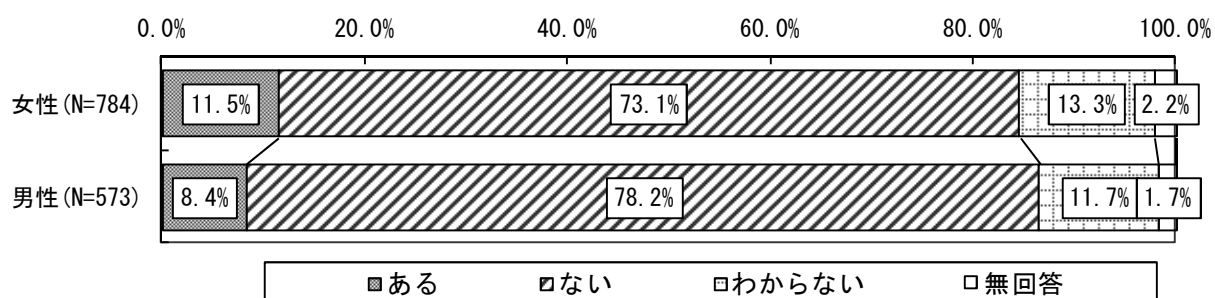


図表 (参考) 人権侵害を受けた経験－平成20年度奈良県人権に関する県民意識調査



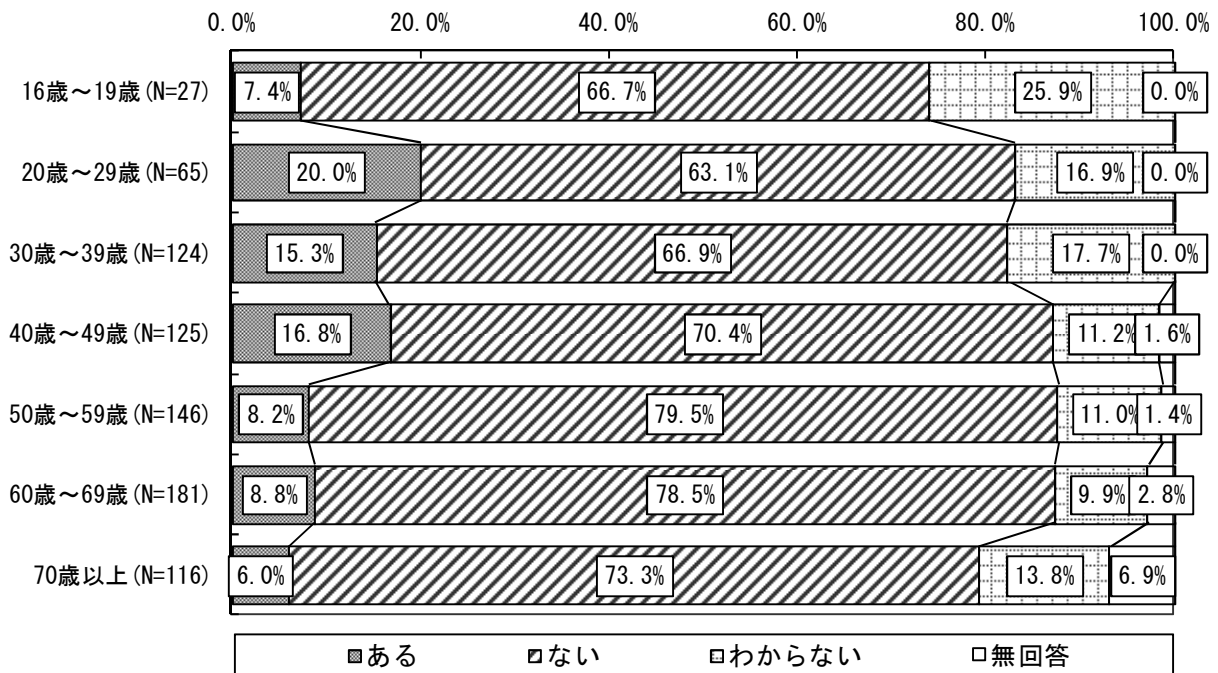
●性別にみると、人権侵害を受けた経験で「ある」は「女性」が11.5%で、「男性」の8.4%をやや上回って多くなっている。

図表 人権侵害を受けた経験－性別

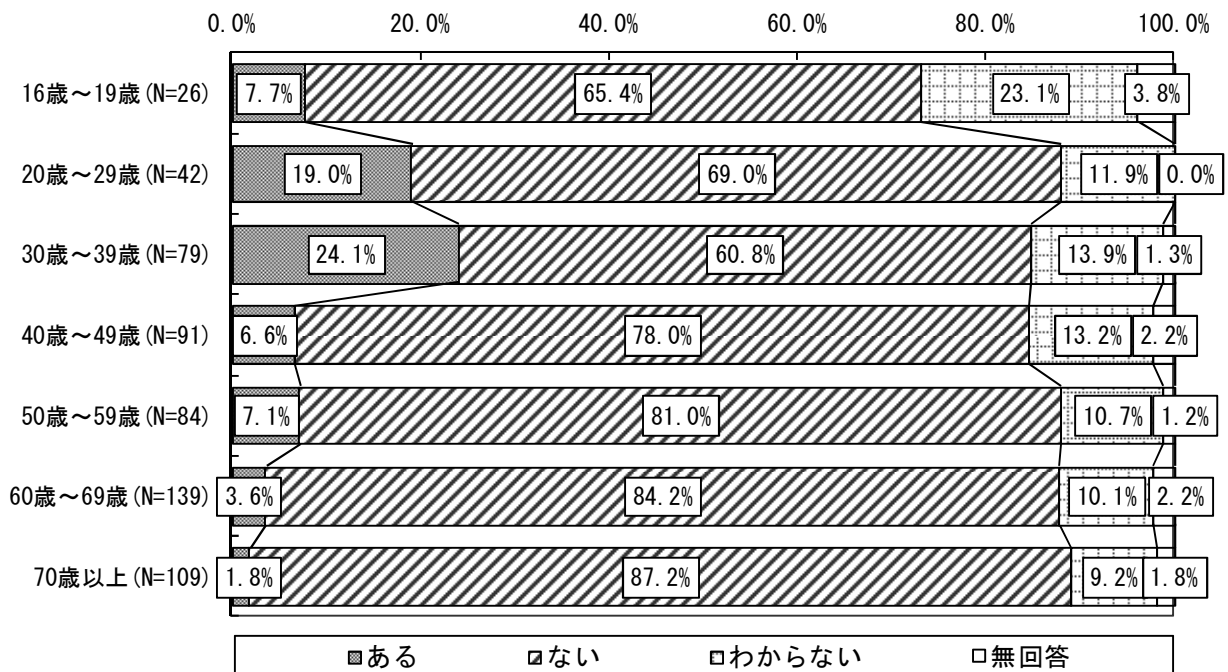


●性・年齢別にみると、「ある」は「女性 20 歳代から 40 歳代」、「男性 20 歳代・30 歳代」で多くなっており、中でも、「男性 30 歳代」が 24.1%と最も多くなっている。

図表 人権侵害を受けた経験—女性・年齢別



図表 人権侵害を受けた経験—男性・年齢別



(22) 受けた人権侵害の内容

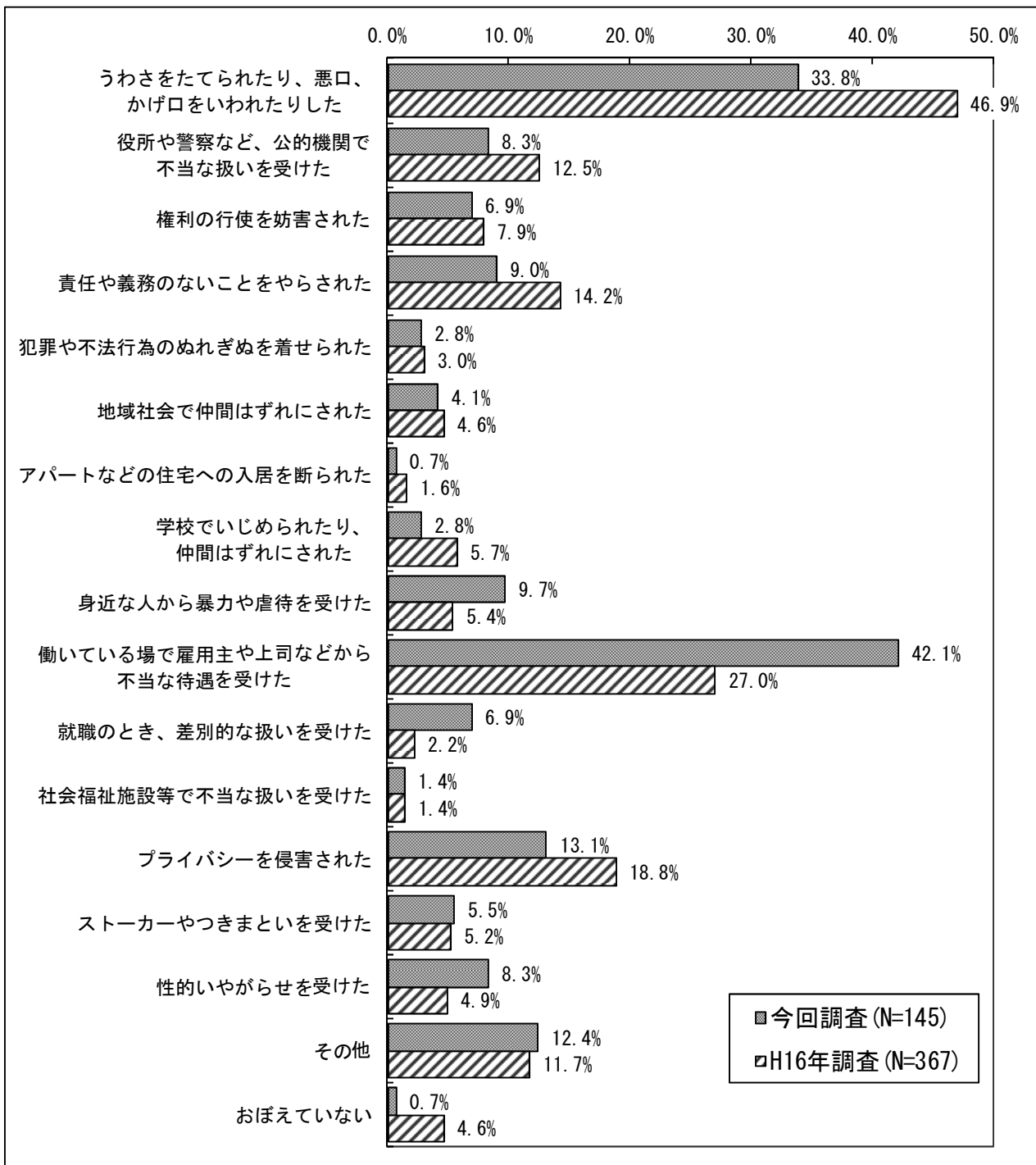
問 21 で「1 ある」と答えられた方におたずねします。

問 22-1 それほどのような内容でしたか。(あてはまるものすべてに○)

●受けた人権侵害の内容は、「働いている場で雇用主や上司などから不当な待遇を受けた」が 42.1%、「うわさをたてられたり、悪口、かげ口をいわれたりした」が 33.8%とこの 2 項目が多くなっている。

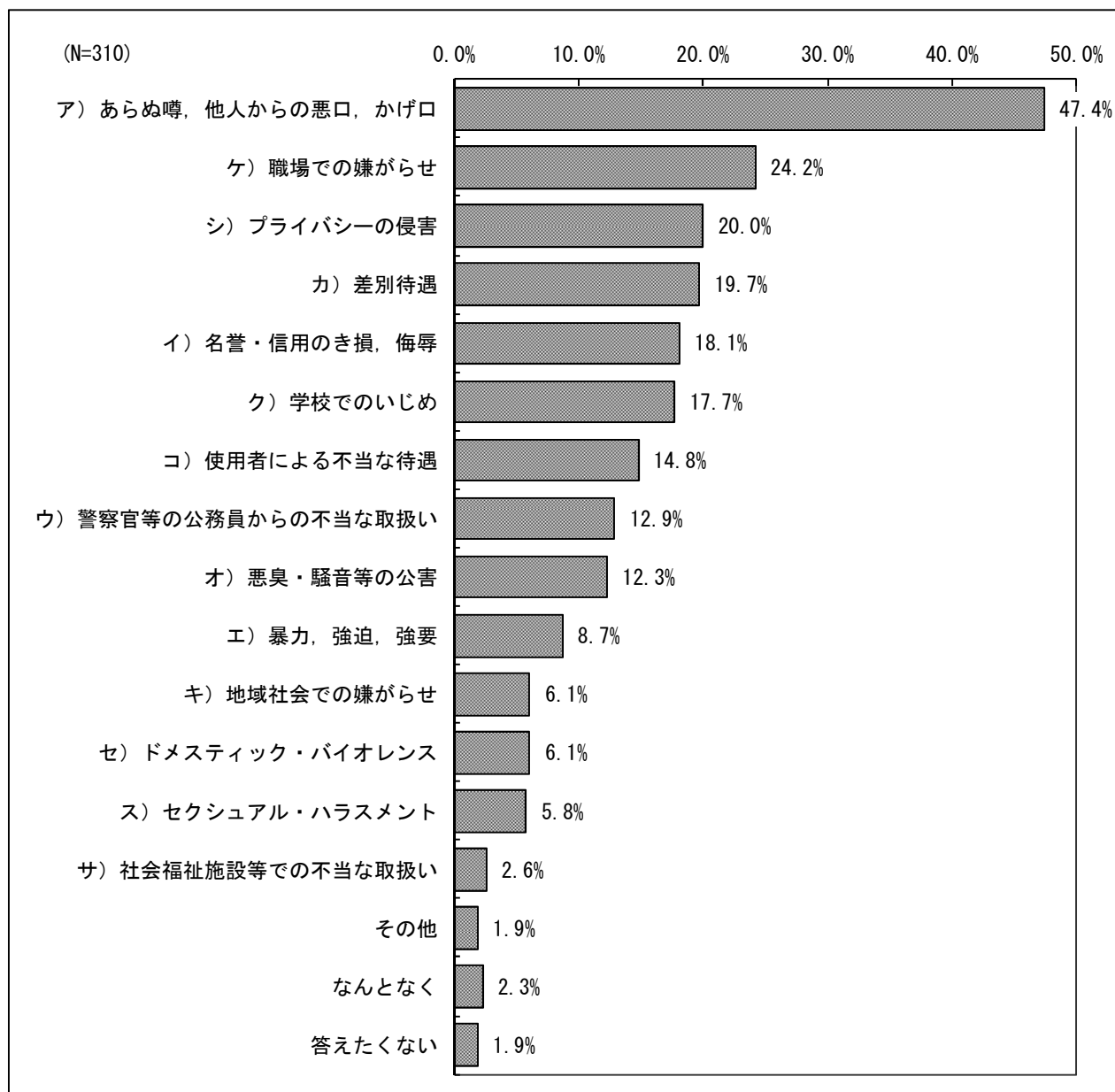
●前回調査と比較すると、上位の 2 項目である「働いている場で雇用主や上司などから不当な待遇を受けた」が 27.0%から 42.1%へと増加し、「うわさをたてられたり、悪口、かげ口をいわれたりした」は 46.9%が 33.8%へと減少している。

図表 受けた人権侵害の内容－経年変化



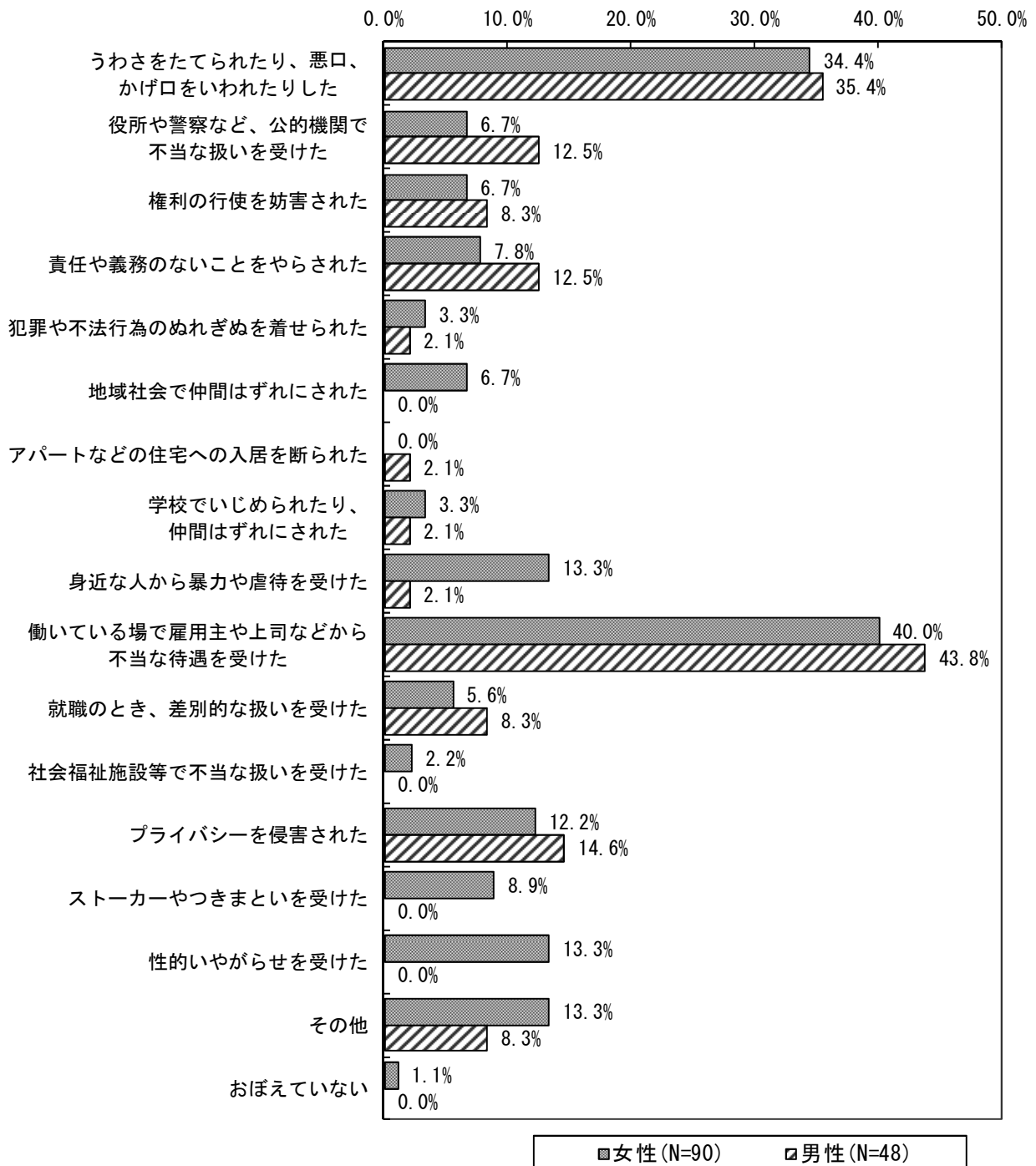
●内閣府調査と比較すると、選択肢の内容が一部異なることもあり直接的な比較はむずかしいが、内閣府調査においても、生駒市と同様に「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」や「職場での嫌がらせ」が多くなっている。

図表 (参考) 受けた人権侵害の内容－平成 24 年内閣府人権擁護に関する世論調査



●性別にみると、割合では少ないが「地域社会で仲間はずれにされた」や「ストーカーやつきまといを受けた」「性的いやがらせを受けた」などは、女性があげている。

図表 受けた人権侵害の内容－性別



●年齢別では、「働いている場で雇用主や上司などから不当な待遇を受けた」が「20歳代から50歳代」が多い。

図表 受けた人権侵害の内容－年齢別

	16歳～19歳 (N=4)	20歳～29歳 (N=21)	30歳～39歳 (N=38)	40歳～49歳 (N=27)	50歳～59歳 (N=18)	60歳～69歳 (N=21)	70歳以上 (N=9)
うわさをたてられたり、悪口、かげ口をいわれたりした	100.0%	38.1%	31.6%	18.5%	22.2%	52.4%	44.4%
役所や警察など、公的機関で不当な扱いを受けた	0.0%	14.3%	10.5%	11.1%	0.0%	9.5%	0.0%
権利の行使を妨害された	25.0%	23.8%	7.9%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%
責任や義務のないことをやらされた	25.0%	19.0%	7.9%	11.1%	5.6%	4.8%	0.0%
犯罪や不法行為のぬれぎぬを着せられた	25.0%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	9.5%	0.0%
地域社会で仲間はずれにされた	0.0%	0.0%	5.3%	3.7%	0.0%	14.3%	0.0%
アパートなどの住宅への入居を断られた	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%
学校でいじめられたり、仲間はずれにされた	50.0%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	4.8%	0.0%
身近な人から暴力や虐待を受けた	25.0%	4.8%	5.3%	18.5%	5.6%	9.5%	11.1%
働いている場で雇用主や上司などから不当な待遇を受けた	0.0%	52.4%	50.0%	48.1%	44.4%	23.8%	11.1%
就職のとき、差別的な扱いを受けた	0.0%	0.0%	15.8%	7.4%	0.0%	0.0%	11.1%
社会福祉施設等で不当な扱いを受けた	0.0%	4.8%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%
プライバシーを侵害された	0.0%	4.8%	10.5%	18.5%	16.7%	19.0%	11.1%
ストーカーやつきまといを受けた	25.0%	4.8%	5.3%	7.4%	5.6%	0.0%	11.1%
性的いやがらせ(セクシュアル・ハラスメント)を受けた	25.0%	9.5%	7.9%	18.5%	5.6%	0.0%	0.0%
その他	0.0%	9.5%	15.8%	3.7%	16.7%	4.8%	33.3%
おぼえていない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%

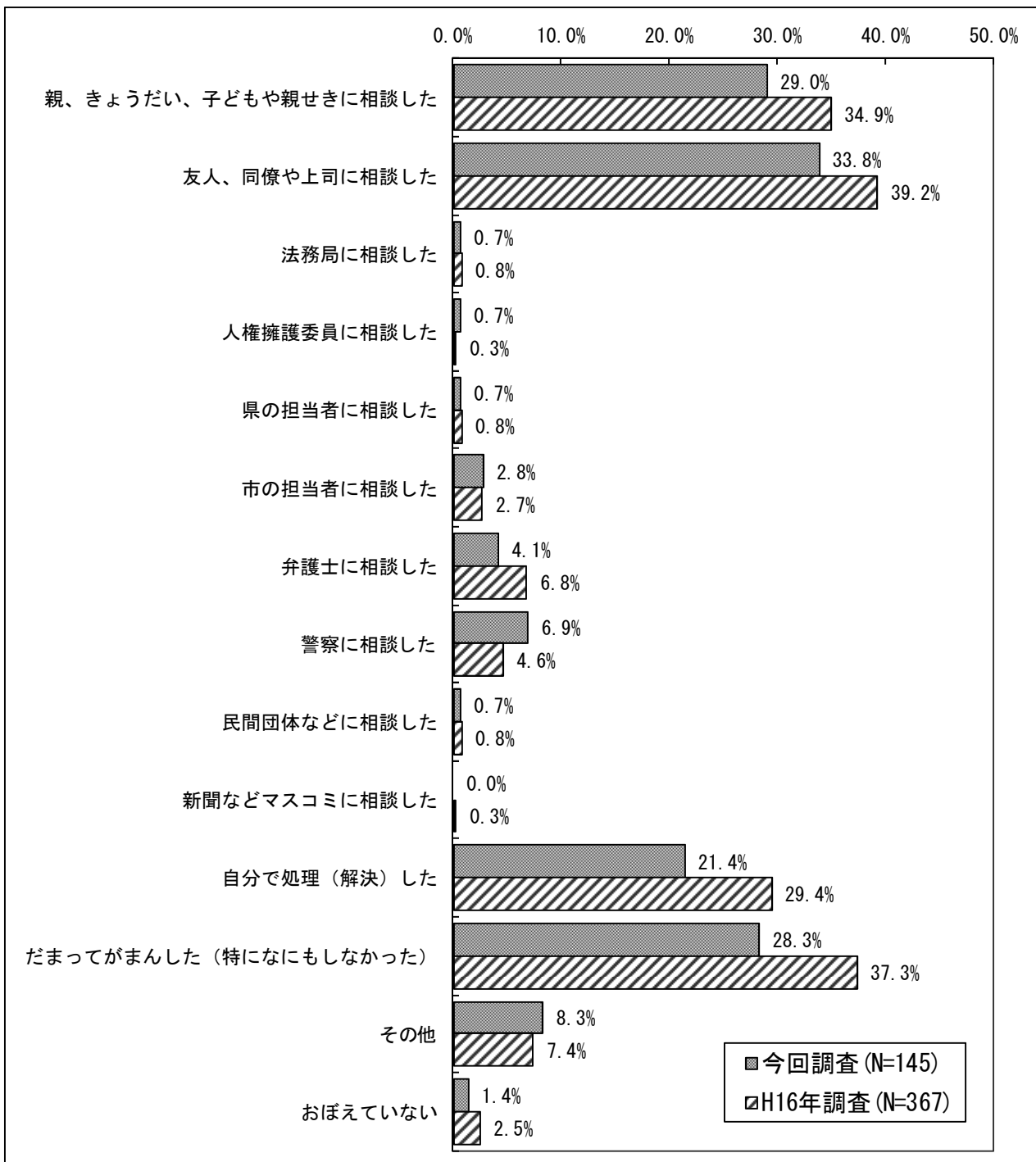
(23) 人権侵害を受けたときの対応

問 21 で「1 ある」と答えられた方におたずねします。

問 22-2 そのとき、どうされましたか。(あてはまるものすべてに○)

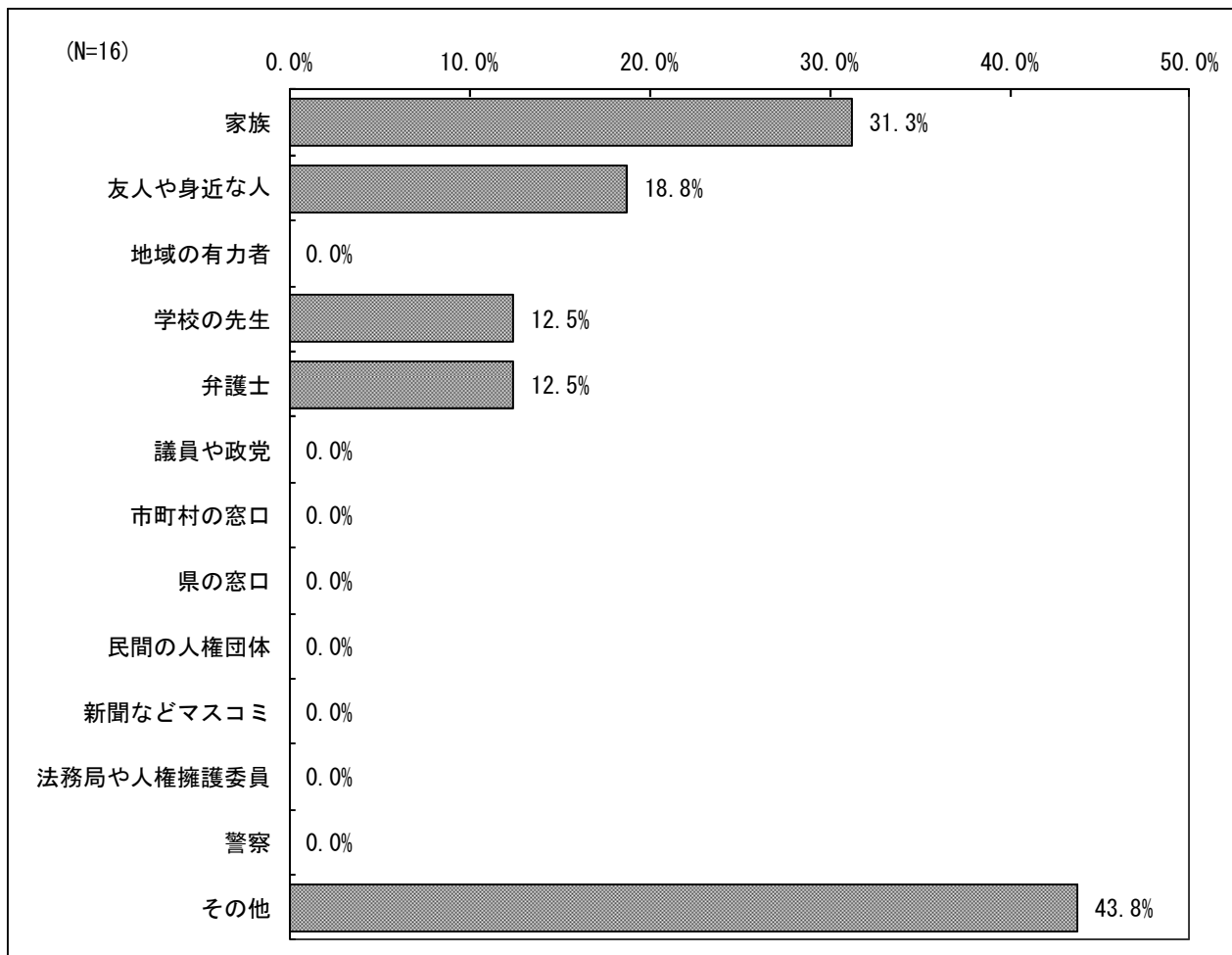
- 人権侵害を受けたときの対応としては、「友人、同僚や上司に相談した」が 33.8%、「親、きょうだい、子どもや親せきに相談した」が 29.0%となっている。
- また、「だまってがまんした（特になにもしなかった）」が 28.3%、「自分で処理（解決）した」が 21.4%と自分だけで抱え込んだり、処理したという人も多くなっている。
- 前回調査と比較すると、上位の4項目の「親、きょうだい、子どもや親せきに相談した」「友人、同僚や上司に相談した」「自分で処理（解決）した」「だまってがまんした（特になにもしなかった）」のいずれも前回よりも減少している。

図表 人権侵害を受けたときの対応－経年変化



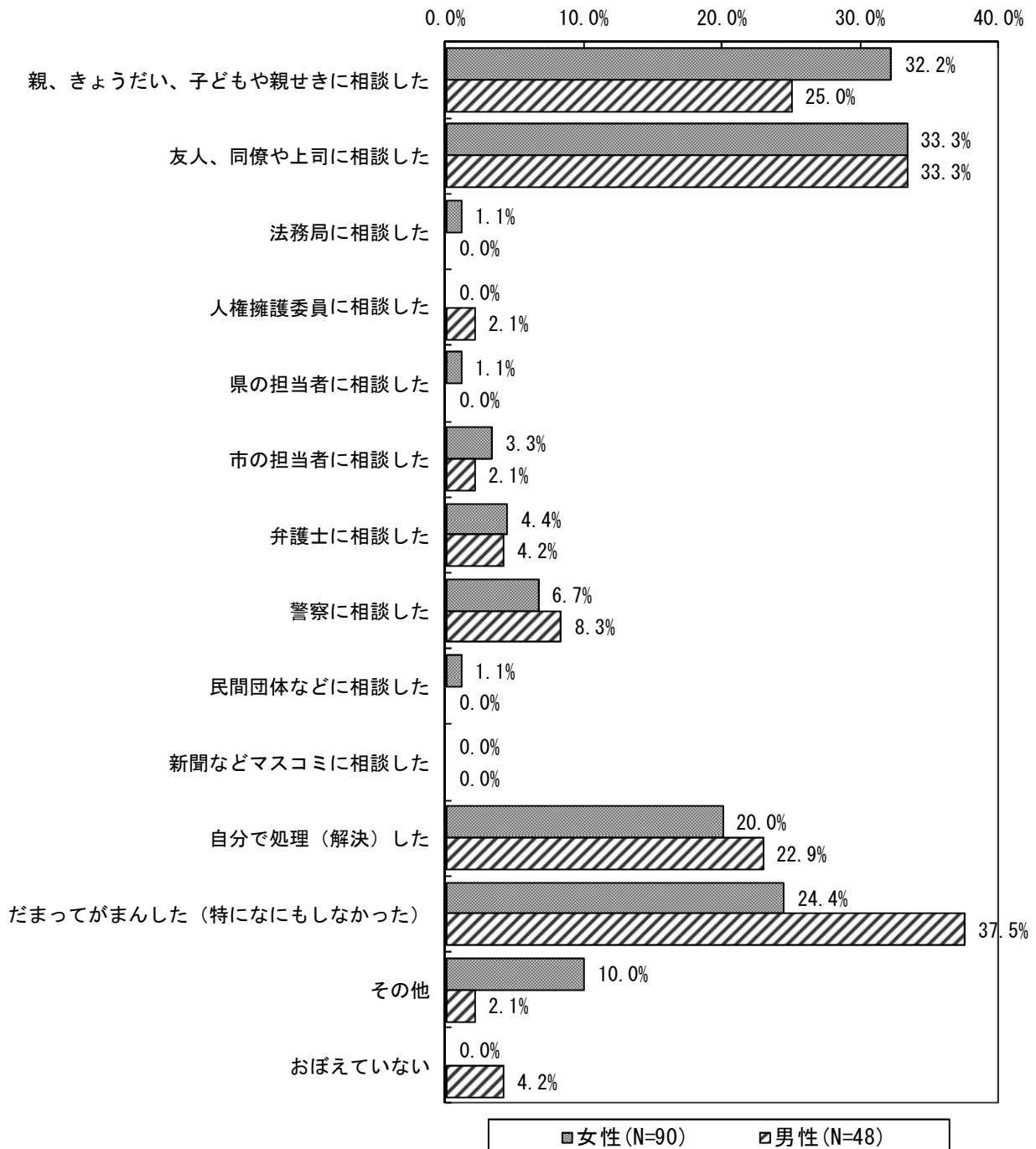
●奈良県人権に関する県民意識調査と比較すると、選択肢の項目が違っており、なおかつ、「相談した」と回答した人に限定していることもあり、奈良県調査では、「その他」が、43.8%と多くなっている。また、奈良県調査では、「市町村の窓口」や「県の窓口」「民間の人権団体」「警察」などは0%となっている。

図表 (参考) 人権侵害を受けたときの対応—平成20年度奈良県人権に関する県民意識調査



●性別にみると、「女性」は「親、きょうだい、子どもや親せきに相談した」が「男性」に比べて多く、「だまってがまんした（特になにもしなかった）」は「男性」に多くみられる。

図表 人権侵害を受けたときの対応—性別



●年齢別にみると、「40 歳代」までの世代は「友人、同僚や上司に相談した」や「親、きょうだい、子どもや親せきに相談した」がそれ以上の世代に比べて多くなっている。

なお、「10 歳代」、「70 歳代」は回答件数がそれぞれ 4 件、9 件と少なくなっている。

図表 人権侵害を受けたときの対応一年齢別

	16歳～19歳 (N=4)	20歳～29歳 (N=21)	30歳～39歳 (N=38)	40歳～49歳 (N=27)	50歳～59歳 (N=18)	60歳～69歳 (N=21)	70歳以上 (N=9)
親、きょうだい、子どもや親せきに相談した	50.0%	38.1%	21.1%	48.1%	27.8%	9.5%	33.3%
友人、同僚や上司に相談した	50.0%	52.4%	34.2%	48.1%	16.7%	9.5%	22.2%
法務局に相談した	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%
人権擁護委員に相談した	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
県の担当者に相談した	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.6%	0.0%	0.0%
市の担当者に相談した	0.0%	4.8%	5.3%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%
弁護士に相談した	25.0%	0.0%	7.9%	7.4%	0.0%	0.0%	0.0%
警察に相談した	25.0%	4.8%	10.5%	7.4%	0.0%	0.0%	22.2%
民間団体などに相談した	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%
新聞などマスコミに相談した	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
自分で処理(解決)した	25.0%	28.6%	23.7%	11.1%	16.7%	23.8%	22.2%
だまっpegまんした(特になにもしなかった)	0.0%	19.0%	39.5%	22.2%	33.3%	33.3%	22.2%
その他	0.0%	14.3%	2.6%	0.0%	22.2%	9.5%	0.0%
おぼえていない	0.0%	0.0%	2.6%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%

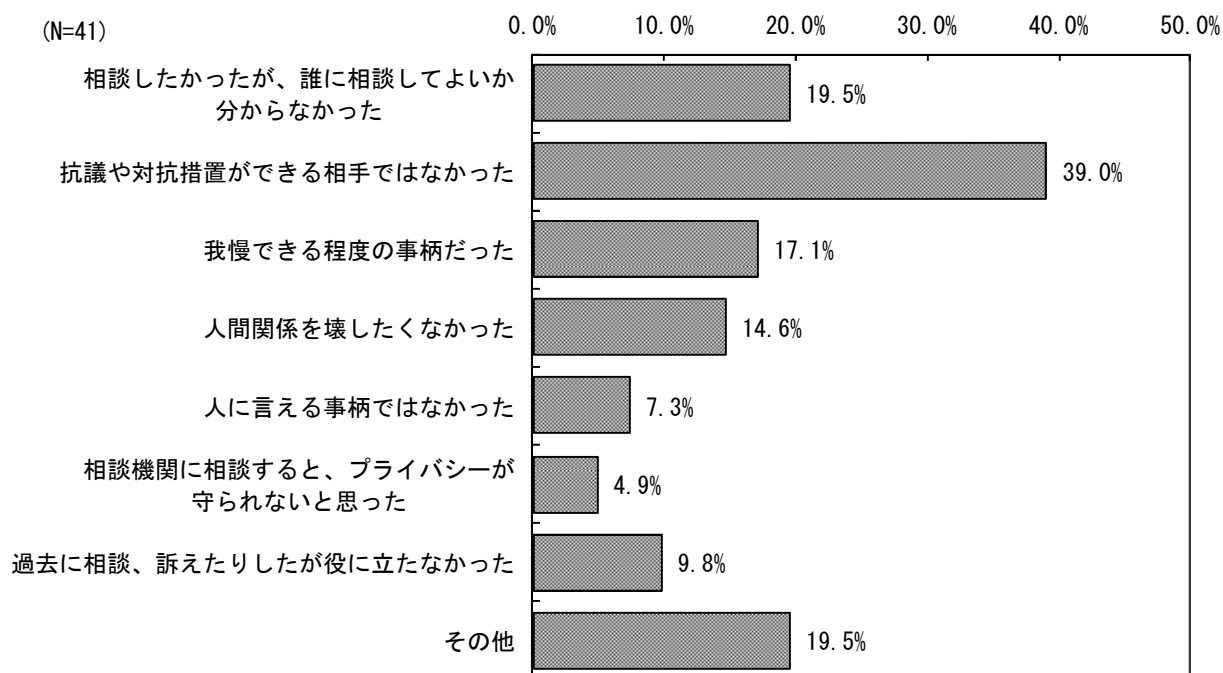
(24) 相談しなかった理由

問 22-2 で「12 だまっがまんした（特になにもしなかった）」と答えられた方におたずねします。

問 22-3 その理由はなぜですか。（あてはまるものすべてに○）

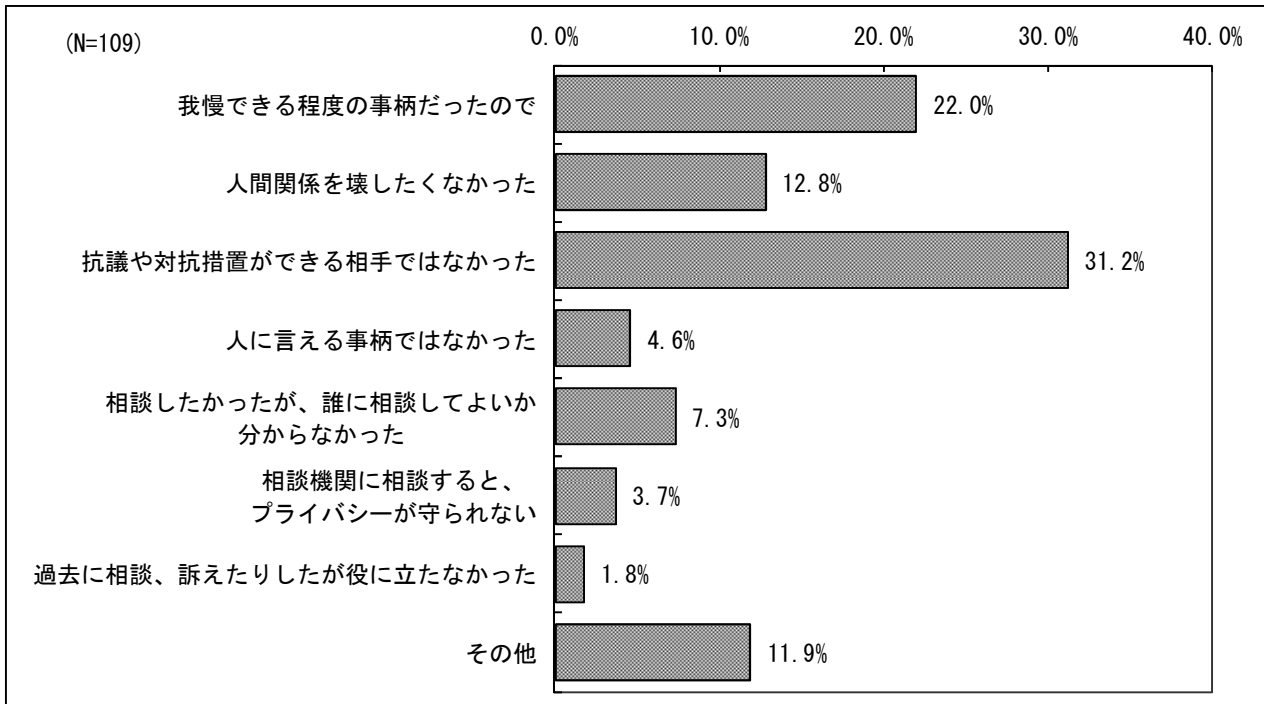
●相談しなかった理由としては、全体の回答数が 41 件と少ないが、「抗議や対抗措置ができる相手ではなかった」が 39.0%と最も多くなっている。

図表 相談しなかった理由



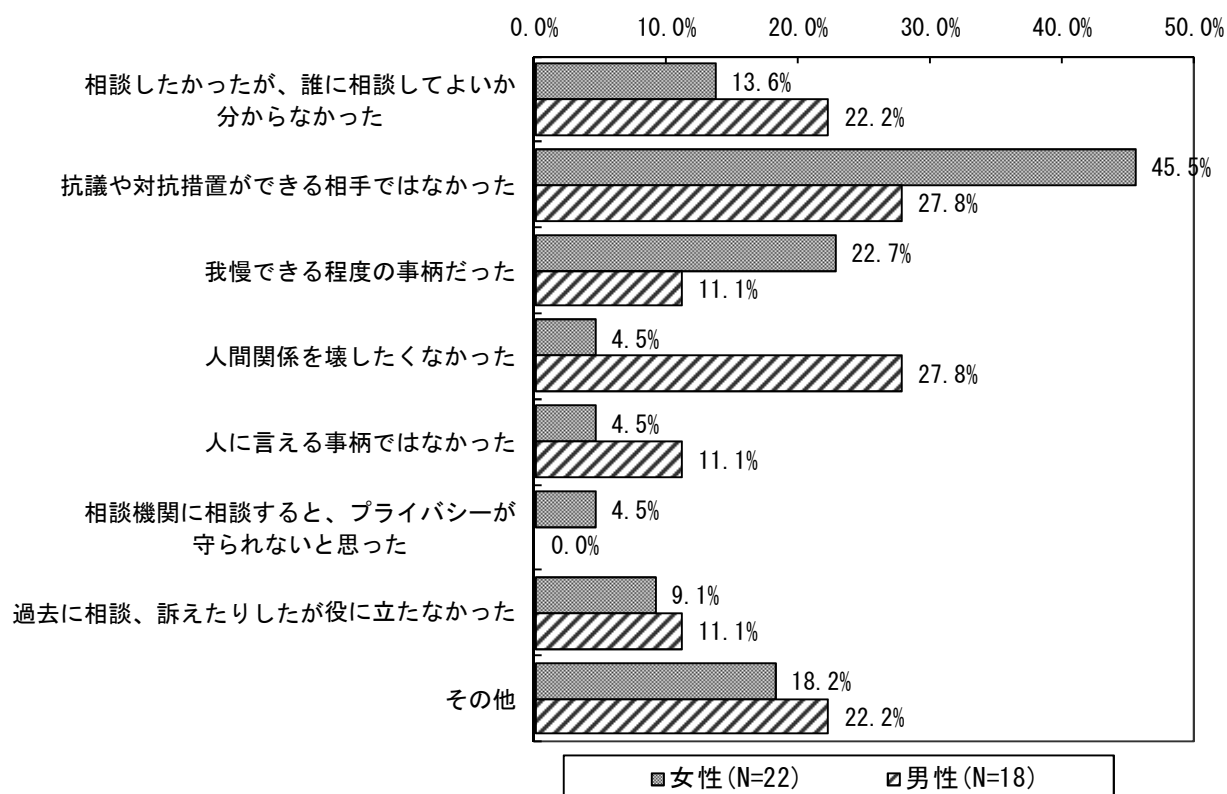
●奈良県人権に関する県民意識調査と比較すると、生駒市調査と同様、「講義や対抗措置ができる相手ではなかった」が31.2%と多くなっている。

図表 (参考) 相談しなかった理由—平成20年度奈良県人権に関する県民意識調査



●性別にみると、回答件数が女性が22件、男性が18件と少ないが、「女性」は「男性」に比べて「抗議や対抗措置ができる相手ではなかった」が多く、「男性」では「人間関係を壊したくなかった」が多くなっている。

図表 相談しなかった理由－性別



●年齢別にみると、いずれの年齢階層でも回答数が少ないため回答の信頼性が低いことに留意する必要があり、おおまかな傾向をみるに留まるが、「抗議や対抗措置ができる相手ではなかった」は「30歳代から60歳代」で多くなっている。

図表 相談しなかった理由－年齢別

	16歳～19歳 (N=0)	20歳～29歳 (N=4)	30歳～39歳 (N=15)	40歳～49歳 (N=6)	50歳～59歳 (N=6)	60歳～69歳 (N=7)	70歳以上 (N=2)
相談したかったが、誰に相談してよいか分からなかった	---	25.0%	13.3%	50.0%	0.0%	14.3%	0.0%
抗議や対抗措置ができる相手ではなかった	---	25.0%	40.0%	50.0%	33.3%	42.9%	0.0%
我慢できる程度の事柄だった	---	25.0%	20.0%	16.7%	0.0%	14.3%	50.0%
人間関係を壊したくなかった	---	0.0%	13.3%	16.7%	33.3%	14.3%	0.0%
人に言える事柄ではなかった	---	25.0%	6.7%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%
相談機関に相談すると、プライバシーが守られないと思った	---	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%
過去に相談、訴えたりしたが役に立たなかった	---	0.0%	13.3%	0.0%	16.7%	0.0%	50.0%
その他	---	25.0%	20.0%	0.0%	33.3%	28.6%	0.0%

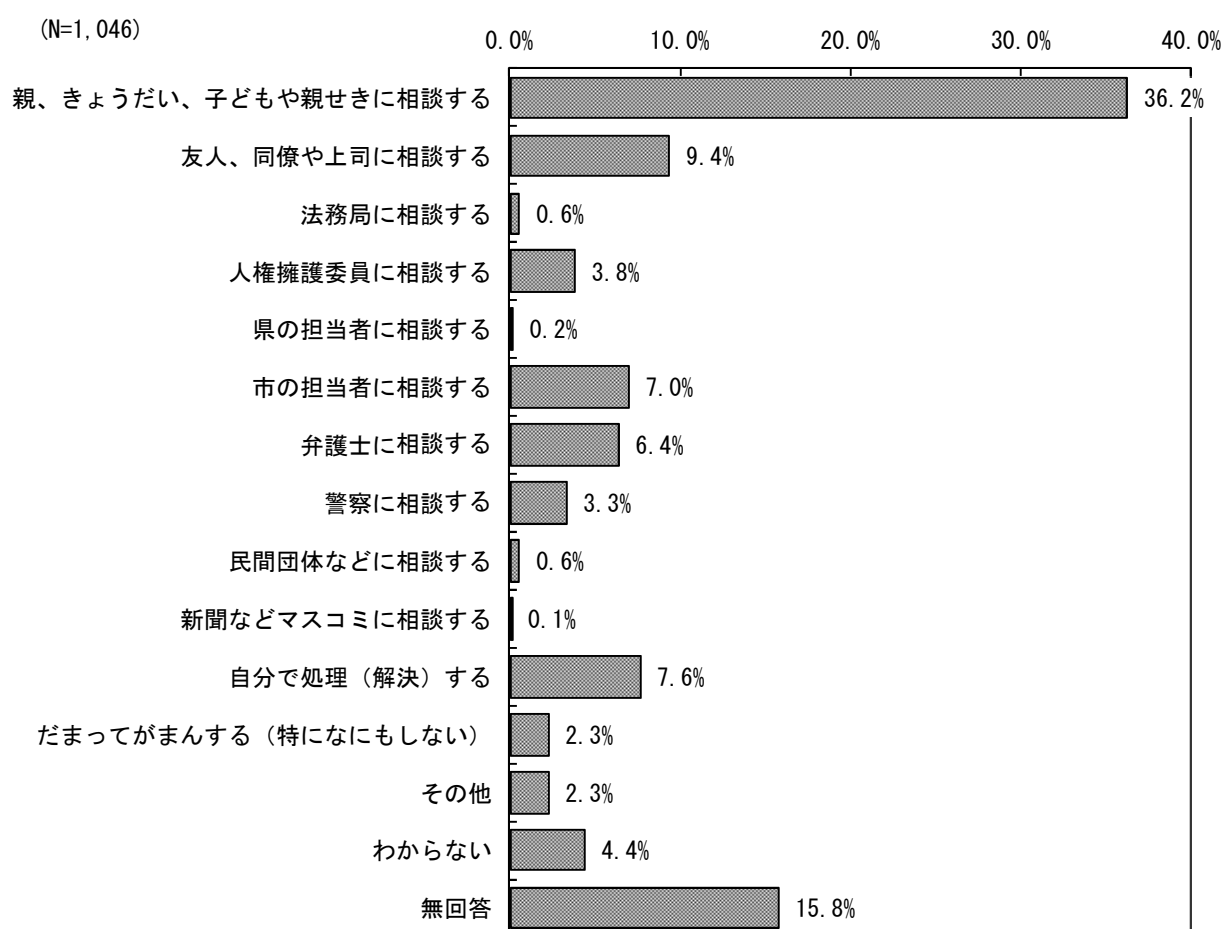
(25) 自分の人権を侵害された場合にするとと思う対応

問 21 で「2 ない」と答えられた方におたずねします。

問 22-4 もし、自分の人権を侵害された場合、まず、どのような対応をしたいと思いますか（いずれか1つに○）

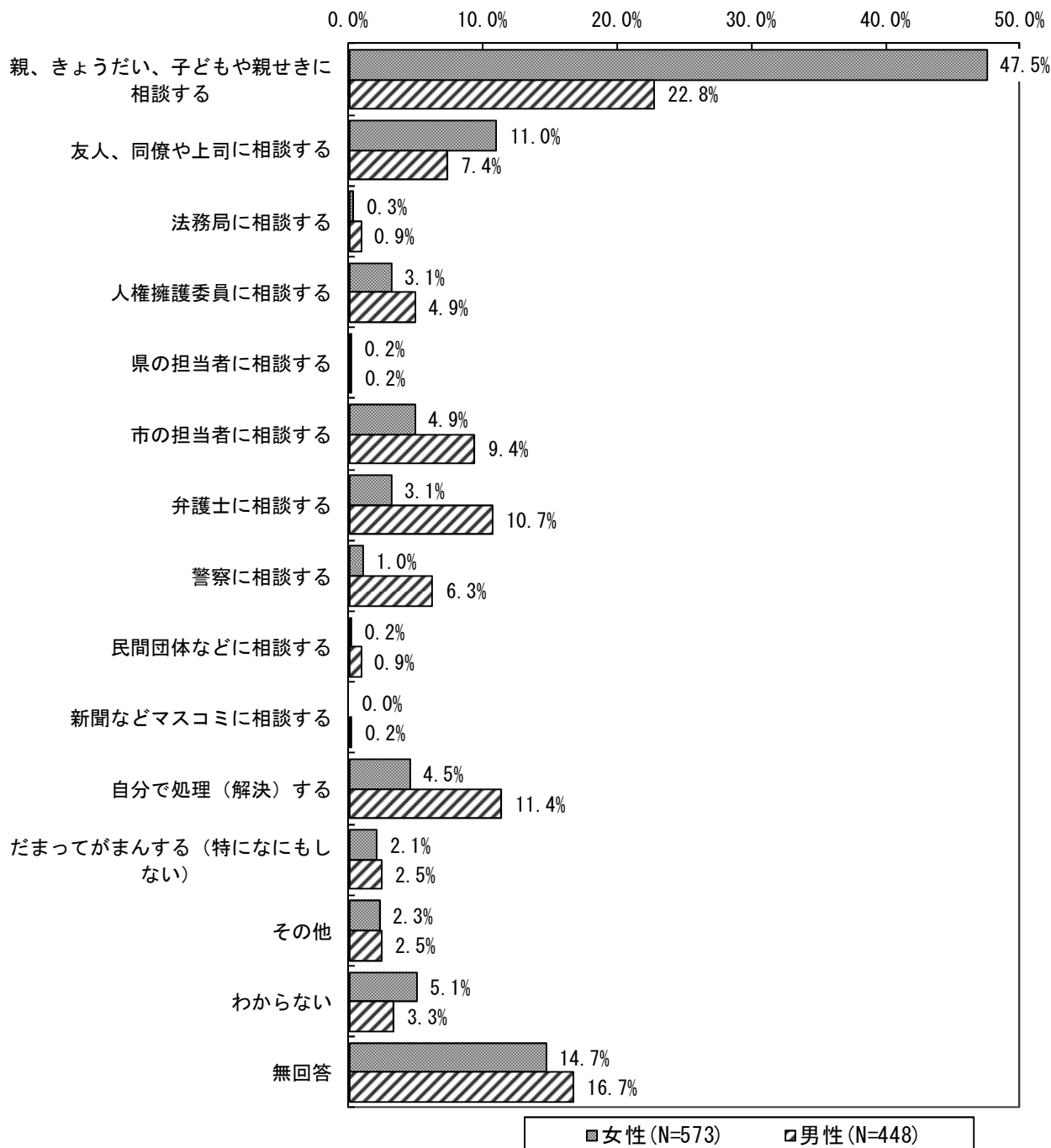
●自分の人権が侵害された場合の対応としては、「親、きょうだい、子どもや親せきに相談する」が 36.2%と多くなっている。

図表 自分の人権を侵害された場合にするとと思う対応



●性別にみると、「女性」は「男性」に比べて「親、きょうだい、子どもや親せきに相談する」や「友人、同僚や上司に相談する」といった誰かに相談するという対応が多く、「男性」は「自分で処理（解決）する」が多くなっている。

図表 自分の人権を侵害された場合にするとする対応—性別



●年齢別にみると、「70歳以上」で、それ以下の世代に比べて、「市の担当者に相談する」や「自分で処理する」が多くなる。

図表 自分の人権を侵害された場合にするとする対応一年齢別

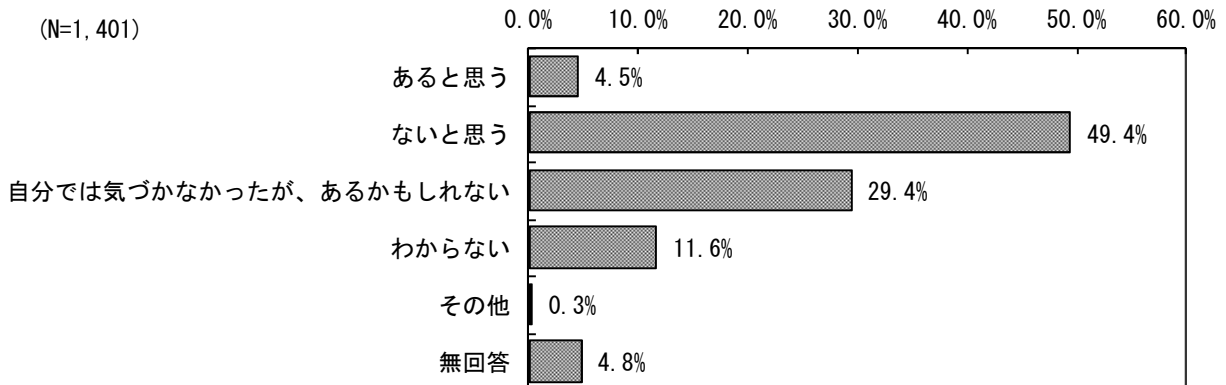
	16歳～19歳 (N=35)	20歳～29歳 (N=70)	30歳～39歳 (N=131)	40歳～49歳 (N=159)	50歳～59歳 (N=184)	60歳～69歳 (N=259)	70歳以上 (N=182)
親、きょうだい、子どもや親せきに相談する	60.0%	45.7%	47.3%	42.1%	35.9%	32.8%	22.5%
友人、同僚や上司に相談する	8.6%	15.7%	12.2%	10.7%	16.8%	4.6%	3.3%
法務局に相談する	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	0.5%	0.8%	0.5%
人権擁護委員に相談する	0.0%	0.0%	0.8%	1.3%	2.7%	5.4%	9.9%
県の担当者に相談する	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%	0.0%	0.4%	0.0%
市の担当者に相談する	2.9%	1.4%	1.5%	4.4%	2.7%	8.9%	17.0%
弁護士に相談する	0.0%	1.4%	3.8%	6.9%	9.2%	6.9%	7.7%
警察に相談する	0.0%	1.4%	0.8%	1.9%	3.8%	5.8%	2.7%
民間団体などに相談する	0.0%	0.0%	0.8%	0.6%	0.0%	1.2%	0.0%
新聞などマスコミに相談する	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%
自分で処理(解決)する	2.9%	10.0%	7.6%	5.7%	4.9%	7.7%	11.5%
だまっpegまんする(特になにもしない)	2.9%	7.1%	3.1%	1.9%	1.6%	1.2%	2.7%
その他	0.0%	0.0%	4.6%	2.5%	1.6%	3.1%	1.6%
わからない	8.6%	5.7%	2.3%	5.0%	4.9%	4.2%	3.3%
無回答	14.3%	11.4%	15.3%	15.1%	15.2%	16.6%	17.0%

(26) 他人の人権を侵害した経験

問 23 あなたは、今までに、他人の人権を侵害したことがあると思いますか。
(いずれか1つに○)

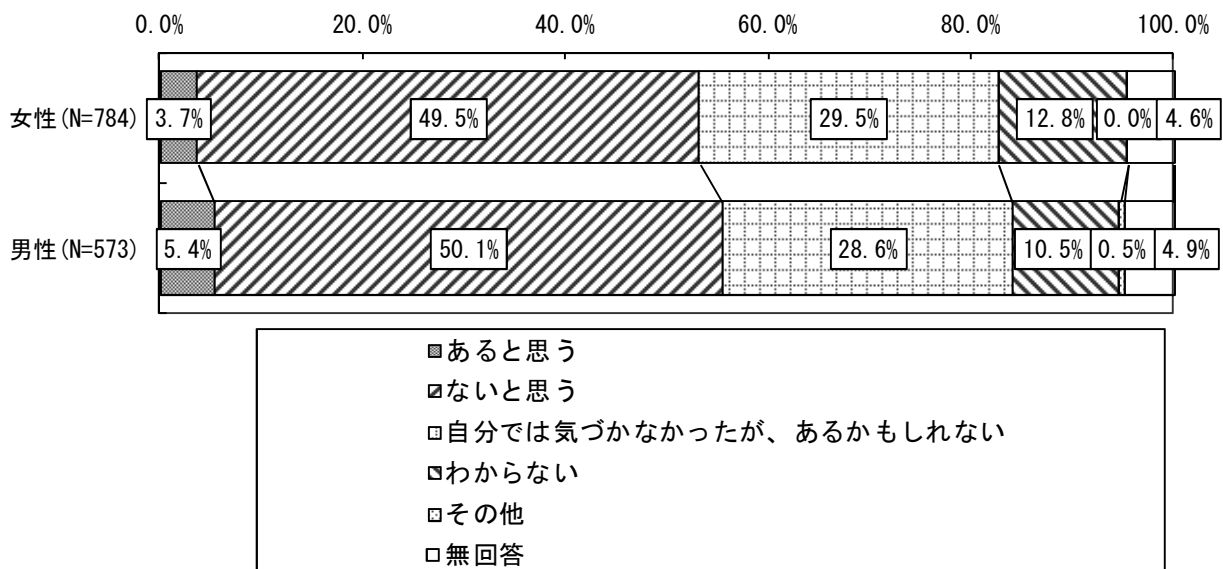
●他人の人権を侵害した経験では、「ないと思う」が49.4%と半数近くとなっているが、「自分では気づかなかったが、あるかもしれない」が29.4%と3割程度の人は、自分が気がつかないうちに他人の人権を侵しているかもしれないと考えている。

図表 他人の人権を侵害した経験



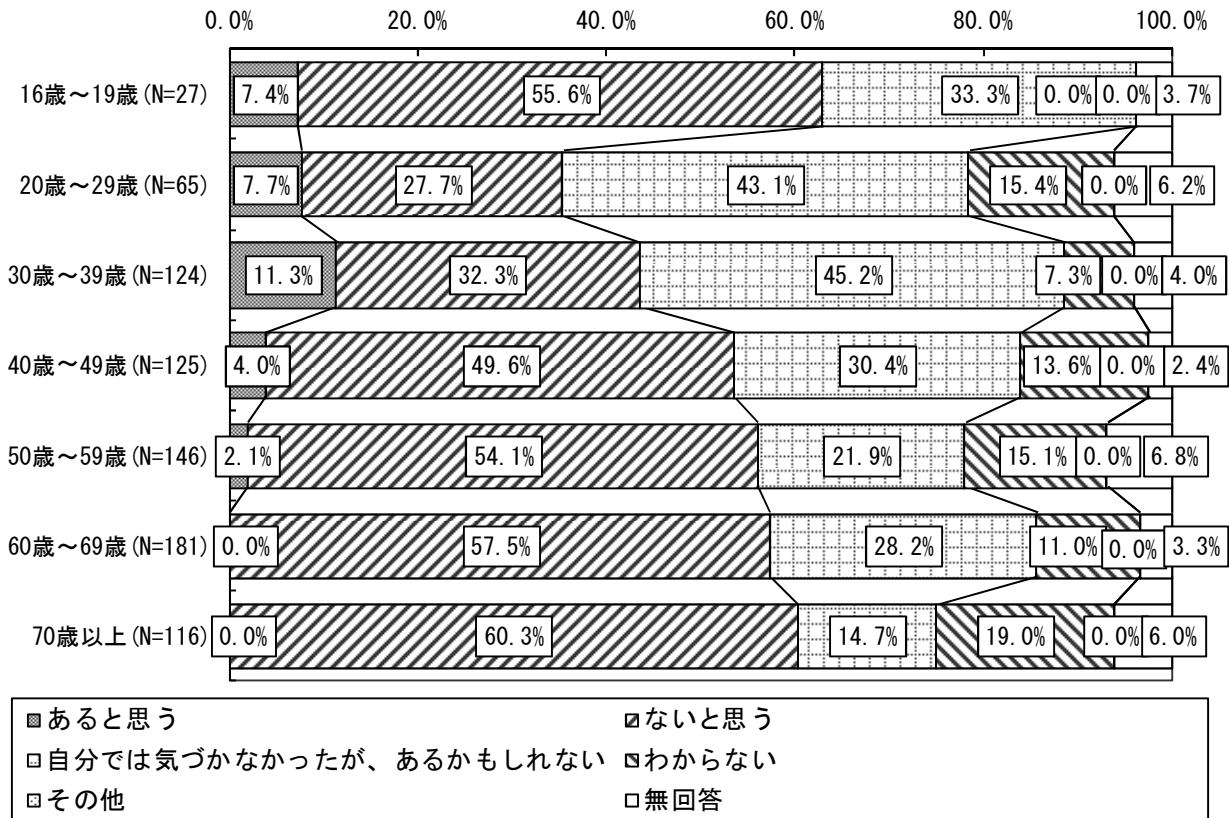
●性別にみると、あまり大きな差異はみられなかった。

図表 他人の人権を侵害した経験－性別

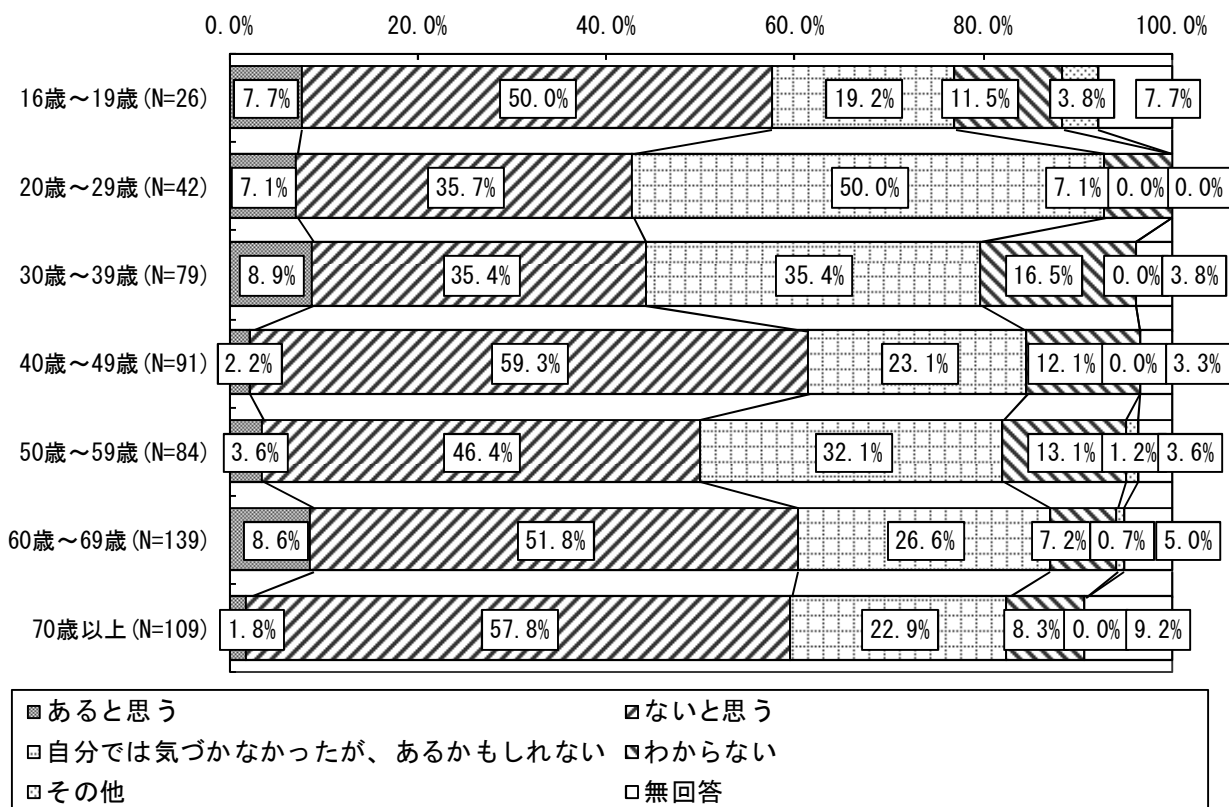


- 性・年齢別にみると、「自分では気づかなかったが、あるかもしれない」が、「女性 10 歳代から 30 歳代」で、「男性 20 歳代・30 歳代」でそれぞれ多くなっている。
- 「あると思う」は、「女性 30 歳代」で 11.3%と最も多くなっている。

図表 他人の人権を侵害した経験－女性・年齢別



図表 他人の人権を侵害した経験－男性・年齢別



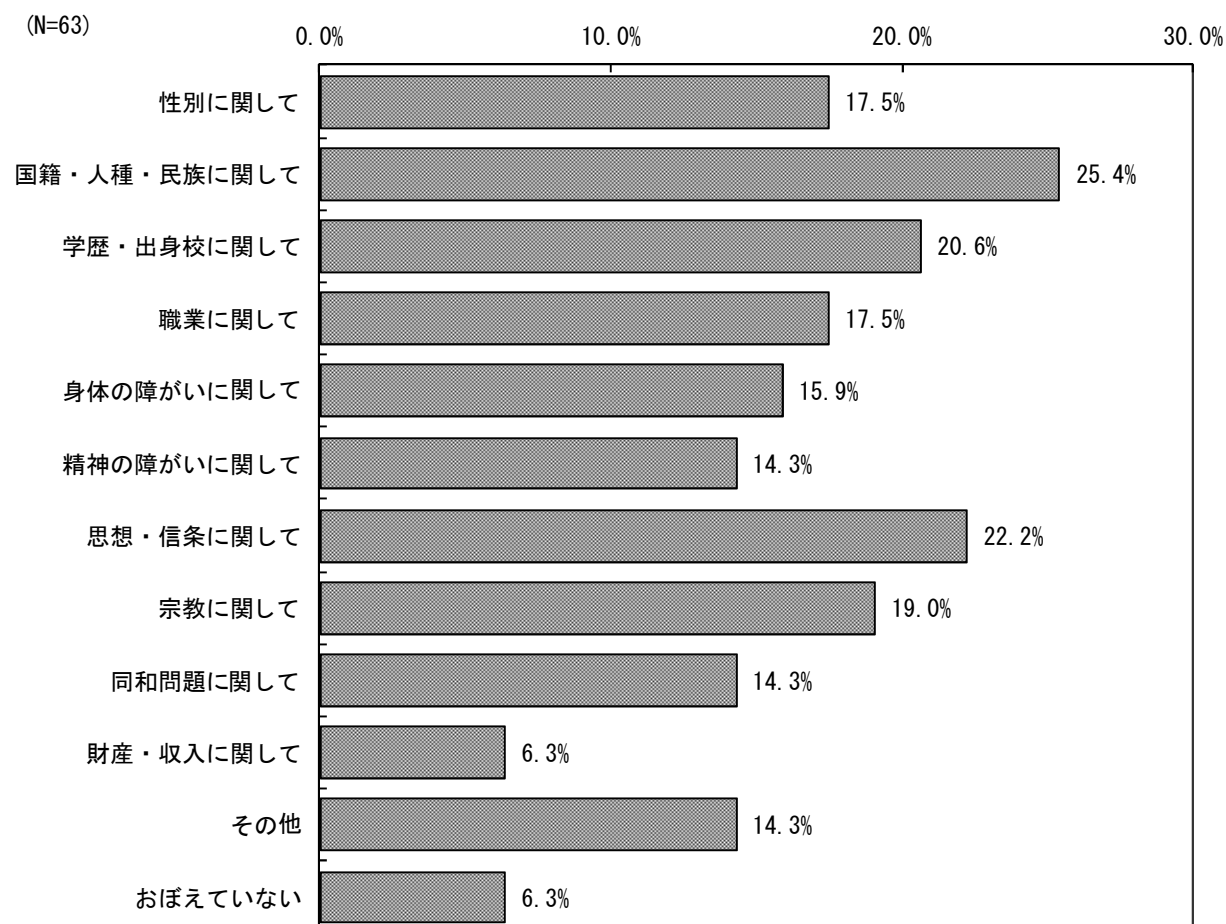
(27) 他人の人権を侵害した内容

問 23 で「1 あると思う」と答えられた方におたずねします。

問 24 それは、どのような内容ですか。(あてはまるものすべてに○)

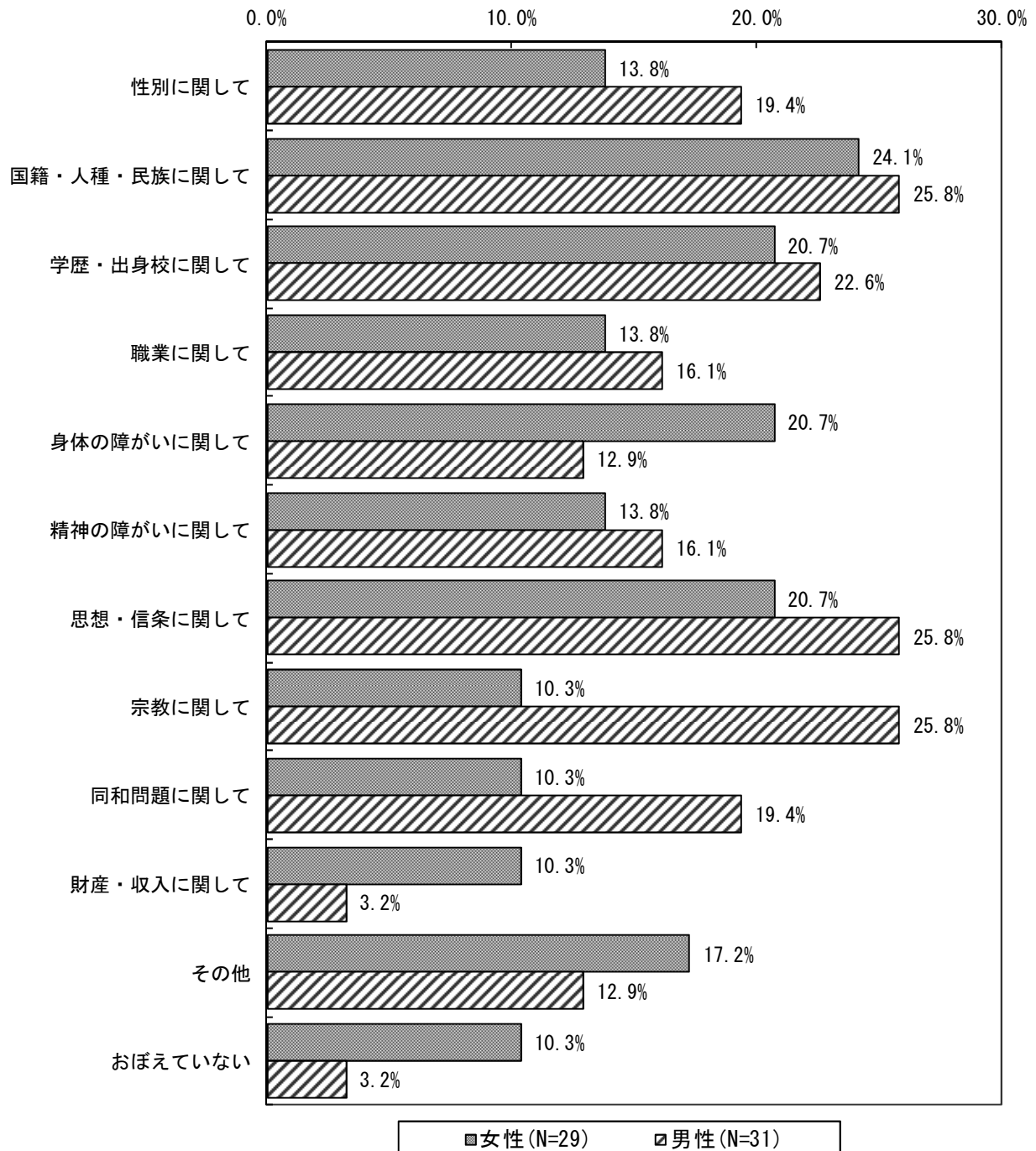
●他人の人権侵害をした内容では、「国籍・人種・民族に関して」が 25.4%、「思想・信条に関して」が 22.2%、「学歴・出身校に関して」が 20.6%などとなっている。

図表 他人の人権を侵害した内容



●性別にみると、「女性」は「身体の障がいに関して」が多く、「男性」は「宗教に関して」や「同和問題に関して」が多くなっている。

図表 他人の人権を侵害した内容－性別



●年齢別にみると、いずれも全体の件数が少ないので、全体の傾向を表しているとはいえない状況となっている。

図表 他人の人権を侵害した内容－年齢別

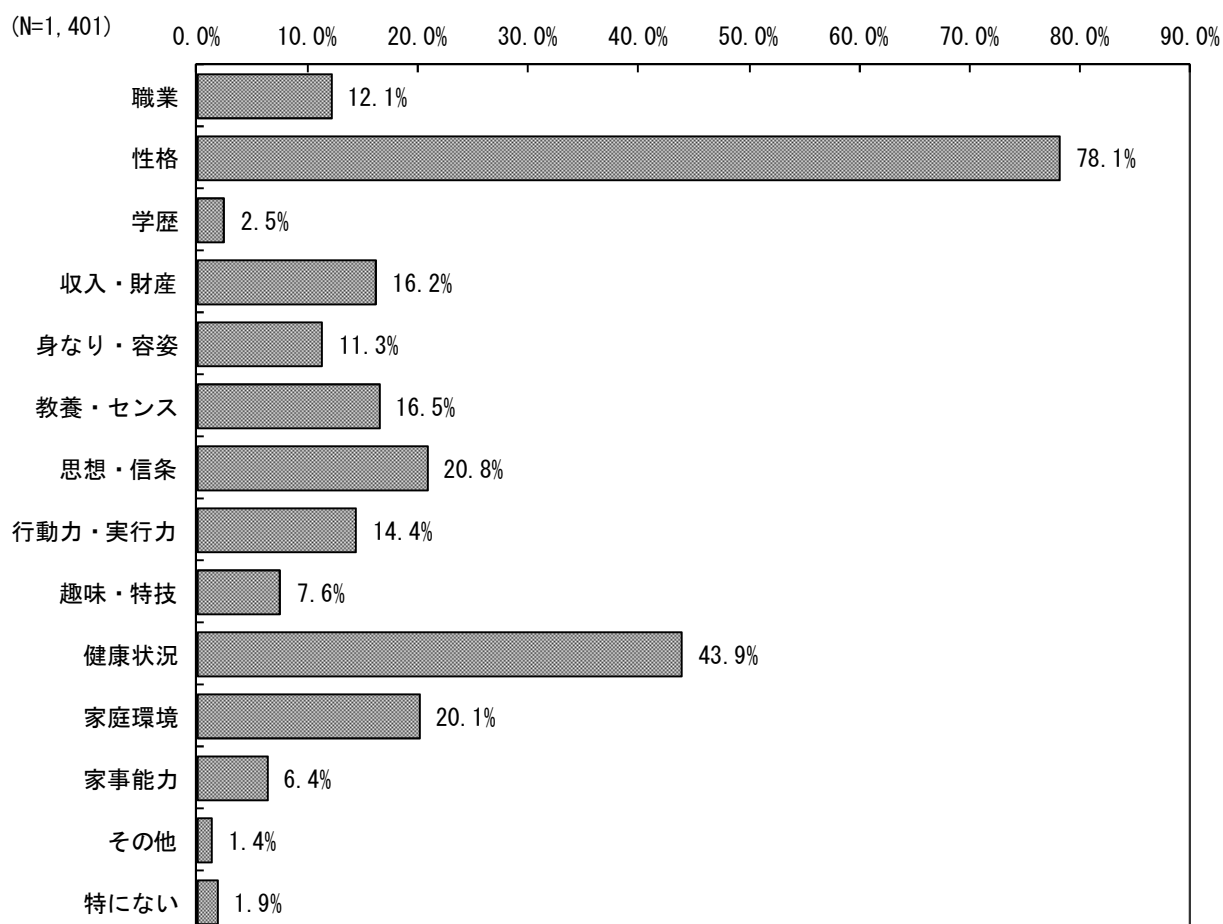
	16歳～19歳 (N=4)	20歳～29歳 (N=8)	30歳～39歳 (N=21)	40歳～49歳 (N=7)	50歳～59歳 (N=6)	60歳～69歳 (N=12)	70歳以上 (N=2)
性別に関して	0.0%	25.0%	19.0%	0.0%	33.3%	16.7%	0.0%
国籍・人種・民族に関して	0.0%	25.0%	23.8%	14.3%	33.3%	33.3%	50.0%
学歴・出身校に関して	25.0%	12.5%	14.3%	14.3%	66.7%	16.7%	50.0%
職業に関して	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%
身体の障がいに関して	0.0%	25.0%	19.0%	14.3%	16.7%	8.3%	50.0%
精神の障がいに関して	50.0%	12.5%	9.5%	0.0%	33.3%	8.3%	50.0%
思想・信条に関して	25.0%	12.5%	14.3%	42.9%	50.0%	25.0%	0.0%
宗教に関して	25.0%	12.5%	14.3%	0.0%	33.3%	25.0%	50.0%
同和問題に関して	0.0%	12.5%	14.3%	28.6%	16.7%	0.0%	100.0%
財産・収入に関して	25.0%	0.0%	9.5%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%
その他	0.0%	37.5%	14.3%	14.3%	0.0%	16.7%	0.0%
おぼえていない	25.0%	12.5%	4.8%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%

(28) 結婚相手に重視するもの

問 25 あなたの結婚相手に求めるものとして重視するものはどれですか。
(主なものを3つまでに○)

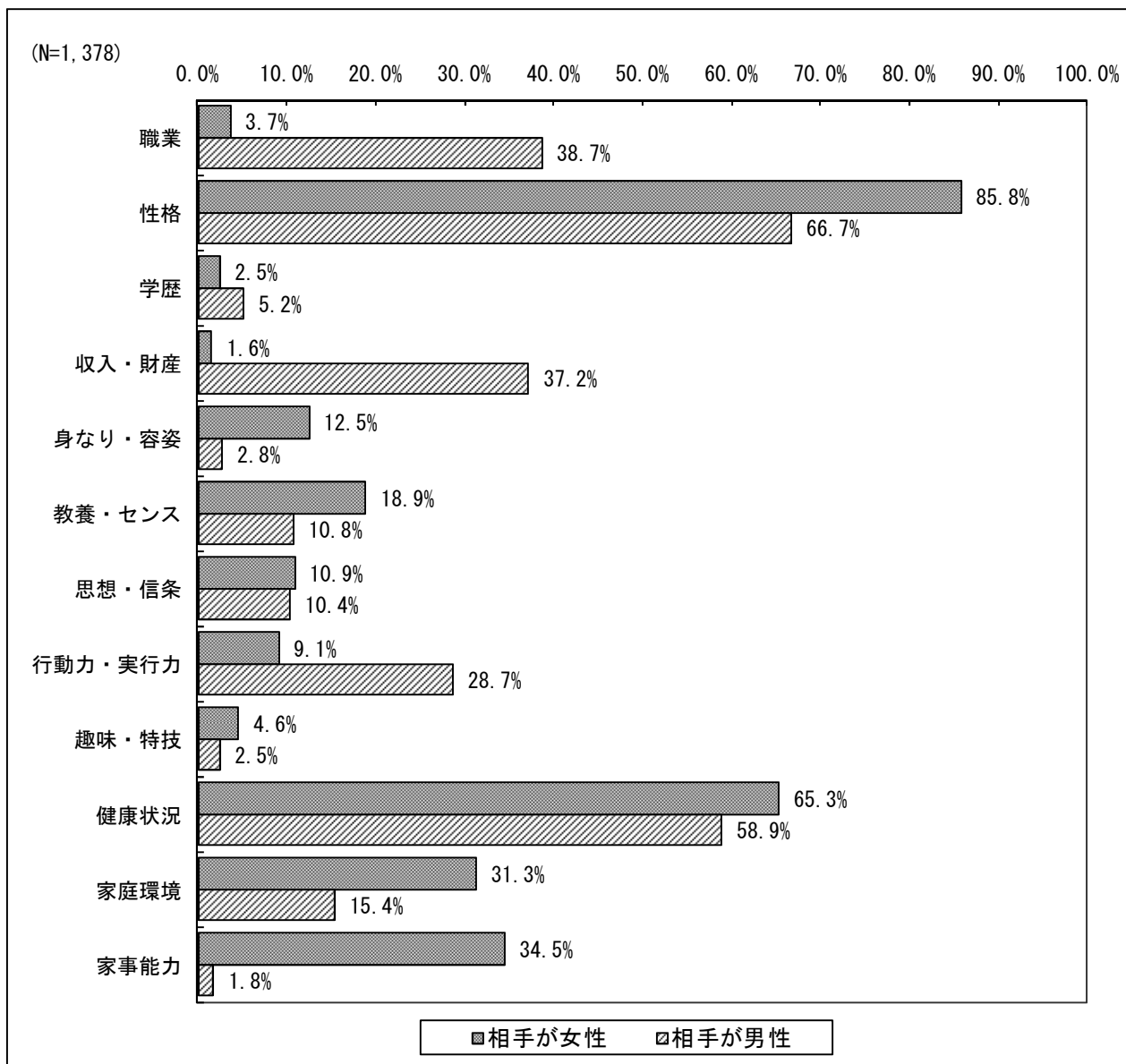
●結婚相手に重視するものとしては、「性格」が78.1%と突出して多くなっている。次いで、「健康状況」が43.9%、「思想・信条」が20.8%、「家庭環境」が20.1%などとなる。

図表 結婚相手に重視するもの



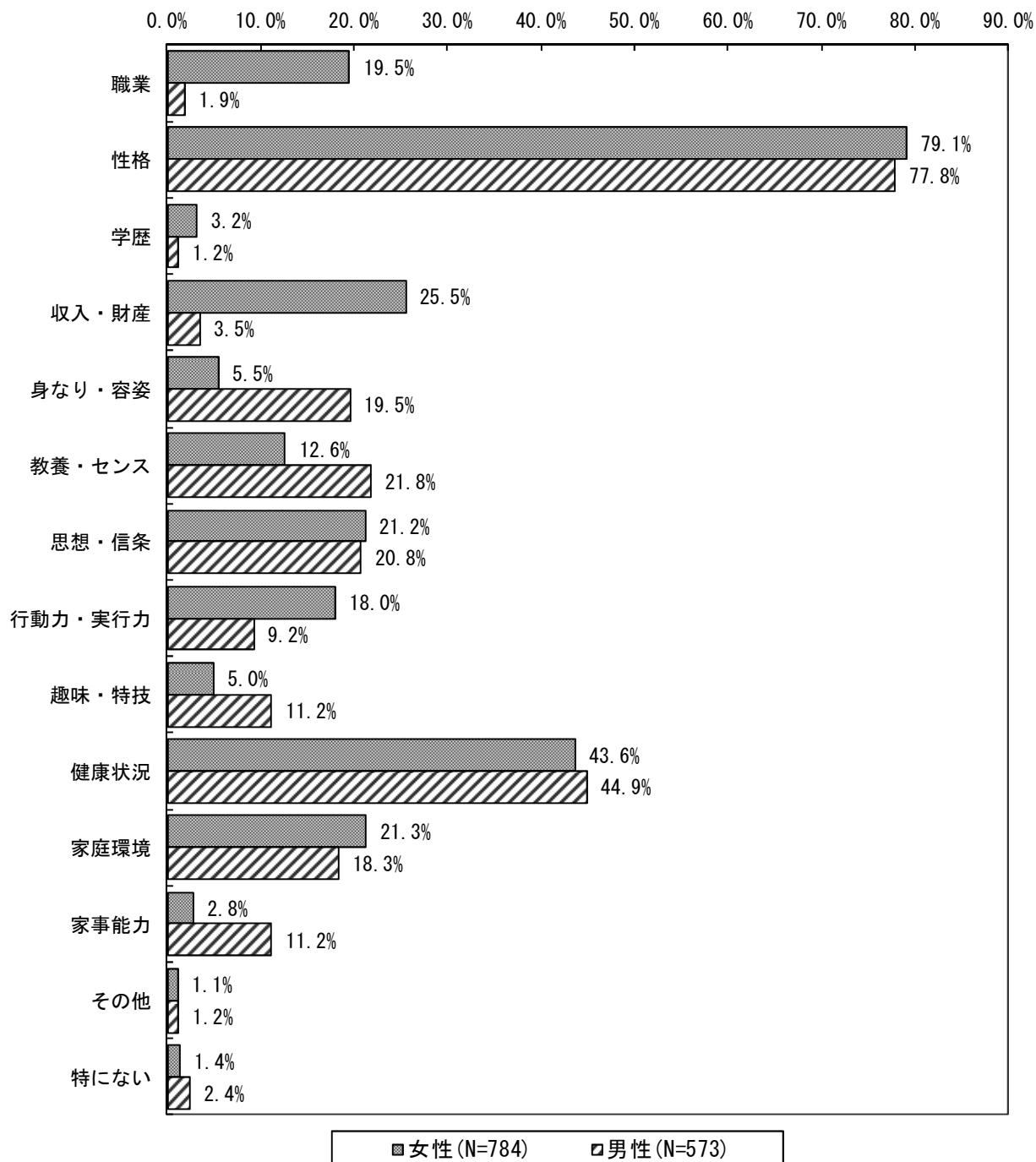
●奈良県人権に関する県民意識調査と比較しても、生駒市調査と同様で、「性格」や「健康状態」が上位を占めている。また、男性が女性に求める「家事能力」は、生駒市の 11.2%に対して、奈良県調査では、34.5%と多くなっている。

図表 (参考) 結婚相手に重視するもの—平成 20 年度奈良県人権に関する県民意識調査



●性別にみると、男女とも「性格」が多いが、「女性」は、「職業」「収入・財産」「行動力・実行力」などで「男性」よりも重視する傾向があり、男性は、「身なり・容姿」「教養・センス」「趣味・特技」「家事能力」を重視している。

図表 結婚相手に重視するもの—性別



●年齢別にみると、「性格」は、いずれの世代においても多くなっており、世代間を超え共通に通じることとなっている。「10歳代」や「20歳代」は「身なり・容姿」を重視するという回答が多くなっており、また、「30歳代」までの世代では「収入・財産」も多くなっている。

●「健康状況」は「30歳代以上」で、「家庭環境」は「60歳代」や「70歳以上」でそれぞれ増加する傾向がみられる。

図表 結婚相手に重視するもの—年齢別

	16歳～19歳 (N=53)	20歳～29歳 (N=107)	30歳～39歳 (N=203)	40歳～49歳 (N=216)	50歳～59歳 (N=230)	60歳～69歳 (N=321)	70歳以上 (N=228)
職業	7.5%	15.9%	10.3%	11.6%	14.3%	10.9%	12.7%
性格	90.6%	84.1%	82.8%	83.8%	83.9%	76.0%	62.3%
学歴	3.8%	0.9%	1.5%	1.4%	1.3%	4.0%	3.1%
収入・財産	22.6%	23.4%	26.1%	16.2%	16.1%	12.1%	8.8%
身なり・容姿	32.1%	24.3%	19.2%	11.1%	6.5%	8.7%	3.1%
教養・センス	5.7%	15.9%	16.3%	18.1%	22.2%	16.8%	11.8%
思想・信条	11.3%	22.4%	22.7%	27.8%	21.3%	20.2%	14.9%
行動力・実行力	18.9%	18.7%	20.2%	18.5%	12.2%	9.3%	11.0%
趣味・特技	18.9%	13.1%	10.3%	10.2%	3.5%	5.6%	4.4%
健康状況	17.0%	17.8%	30.0%	34.3%	48.3%	57.3%	61.8%
家庭環境	9.4%	17.8%	16.3%	15.7%	17.0%	28.3%	22.4%
家事能力	15.1%	8.4%	10.8%	6.9%	4.3%	3.4%	4.4%
その他	3.8%	2.8%	2.0%	0.9%	0.9%	0.9%	0.0%
特にない	0.0%	0.0%	2.0%	3.2%	1.7%	1.9%	1.8%

(29) 人権問題の理解を深めるための学習意向

問 26 あなたは、人権問題の理解を深めるために、今後読書や学習（講演会や研修会の参加を含む）をしてみたいと思いますか。（いずれか1つに○）

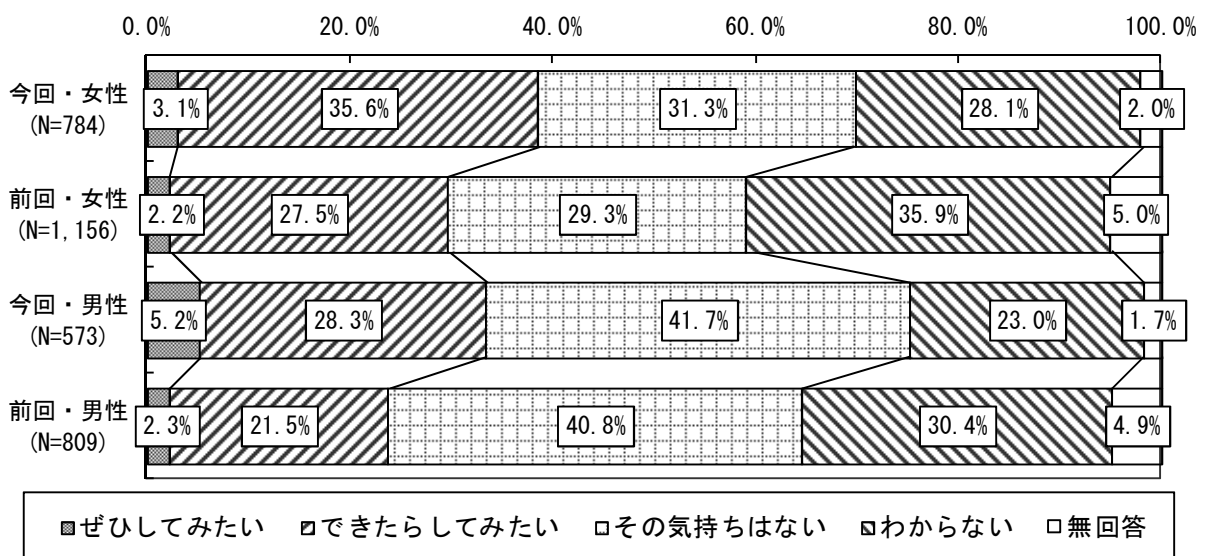
- 人権問題の理解を深めるための学習についての意欲では、「その気持ちはない」が34.5%、「できたらしてみたい」が31.5%となっている。
- 「ぜひしてみたい」は3.9%とごく僅かである。

図表 人権問題の理解を深めるための学習意向



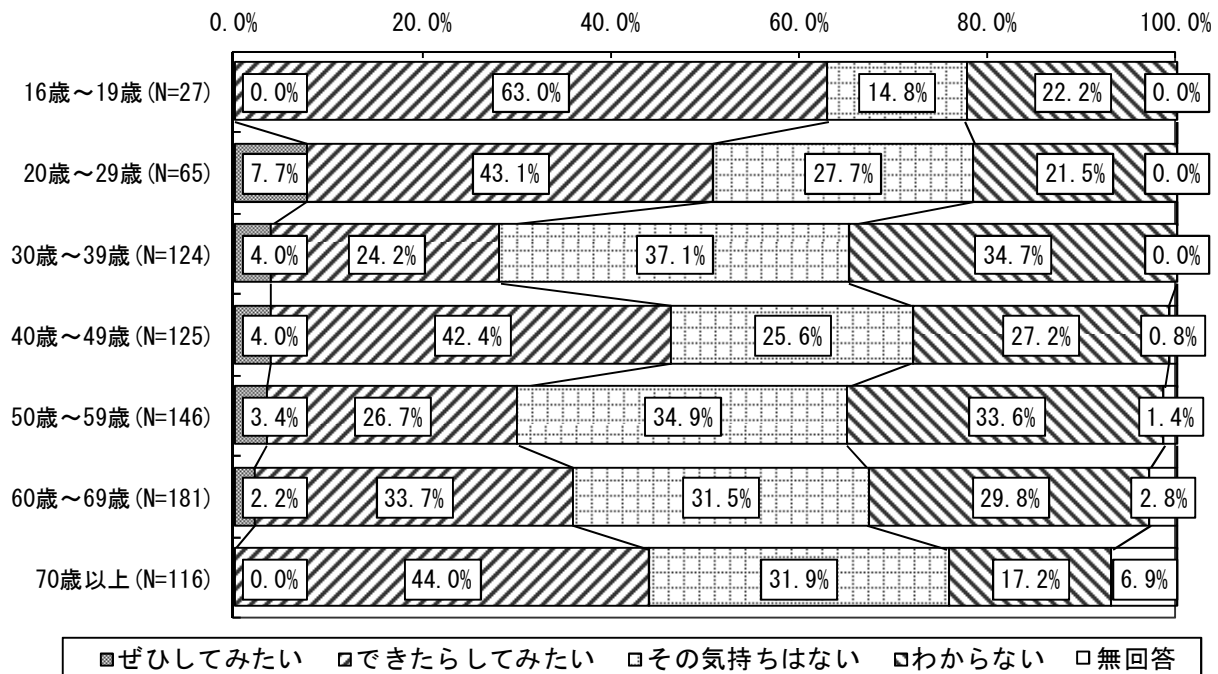
- 性別にみると、「ぜひしてみたい」は「男性」が5.2%で、「女性」の3.1%を上回るが、「女性」は、「できたらしてみたい」が35.6%と多く、「男性」は、「その気持ちはない」が41.7%となり、おおむね女性のほうが学習に対する意欲が強くなっている。
- 前回調査と比較すると、男女とも「ぜひしてみたい」と「できたらしてみたい」は増加しており、学習してみたいと考えている人が増加傾向にある。

図表 人権問題の理解を深めるための学習意向－性別

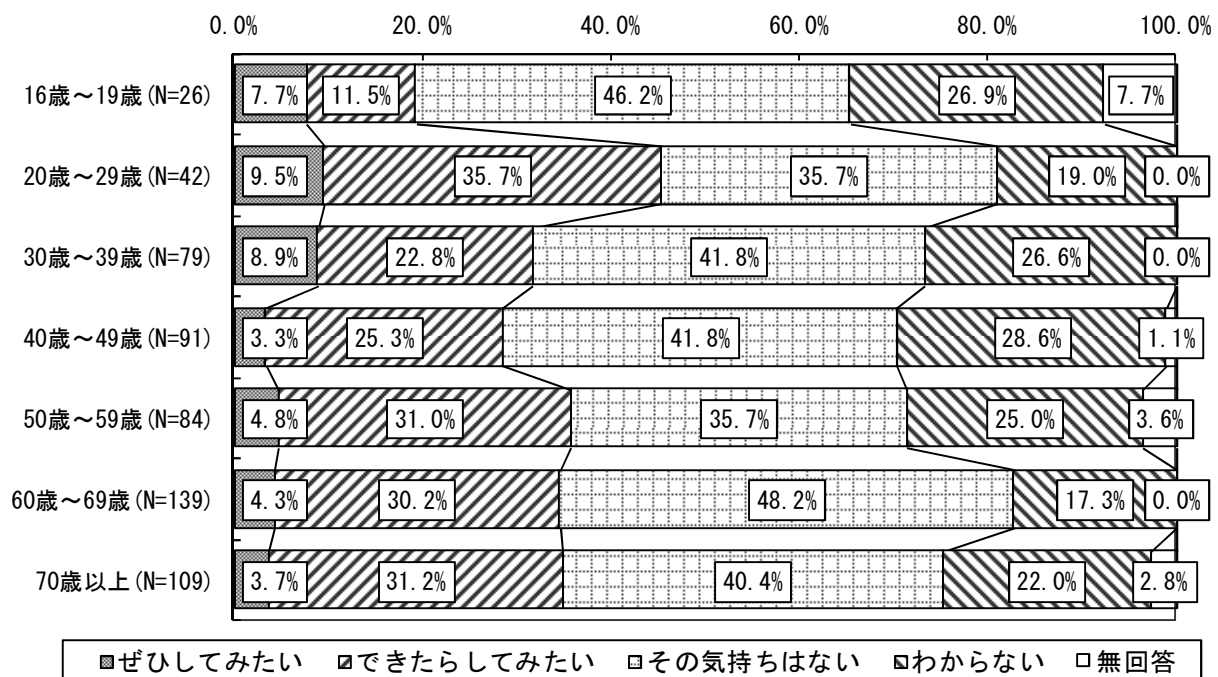


- 性・年齢別にみると、「できたらしてみたい」は、「女性 10 歳代」で 63.0%と最も多く、「男性 10 歳代」が 11.5%と最も少なくなっている。
- また、男性では、「20 歳代」が「ぜひしてみたい」「できたらしてみたい」とも、他の年代より多くなっている。

図表 人権問題の理解を深めるための学習意向－女性・年齢別



図表 人権問題の理解を深めるための学習意向－男性・年齢別



(30) 人権問題理解のための学習をしたくない理由

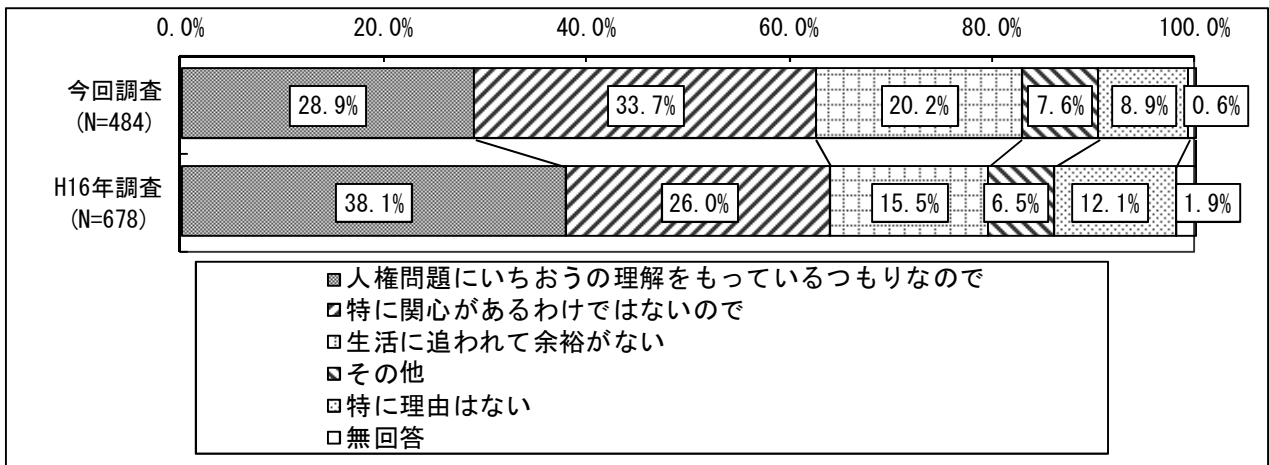
問 26 で「3 その気持ちはない」と答えられた方におたずねします。

問 27 それはなぜですか。(いずれか1つに○)

●人権問題理解のための学習をしたくない理由としては、「特に興味があるわけではないので」が 33.7%、「人権問題にいちおうの理解をもっているつもりなので」が 28.9%となる。

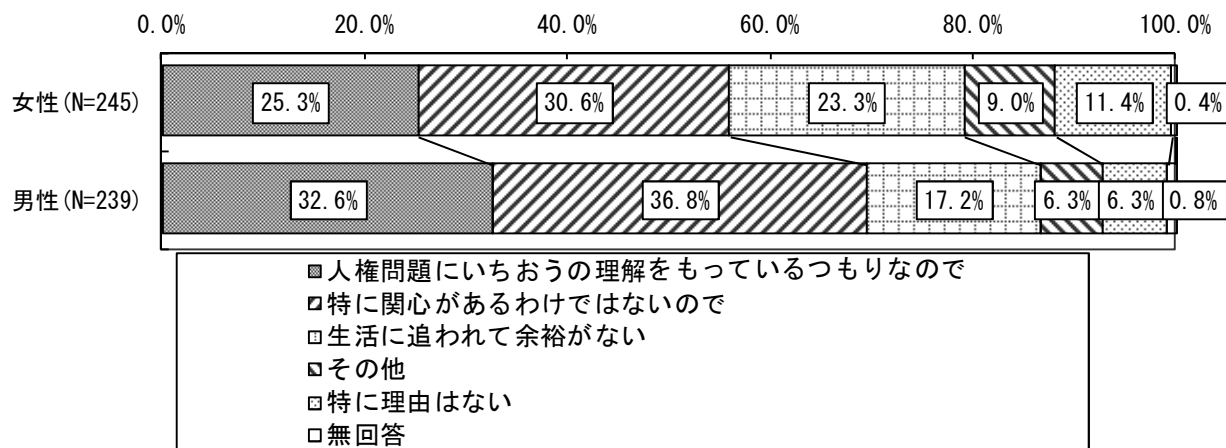
●前回調査と比較すると、「人権問題にいちおうの理解をもっているつもりなので」は前回の 38.1%から 28.9%へと減少している。代わって、「特に興味があるわけではないので」や「生活に追われて余裕がない」が増加している。

図表 人権問題理解のための学習をしたくない理由—経年変化



●性別にみると、「女性」は、「生活に追われて余裕がない」が23.3%と多く、「男性」は、「人権問題にいちおうの理解をもっているつもりなので」が32.6%、「特に興味があるわけではないので」が36.8%と女性に比べて多くなっている。

図表 人権問題理解のための学習をしたくない理由－性別

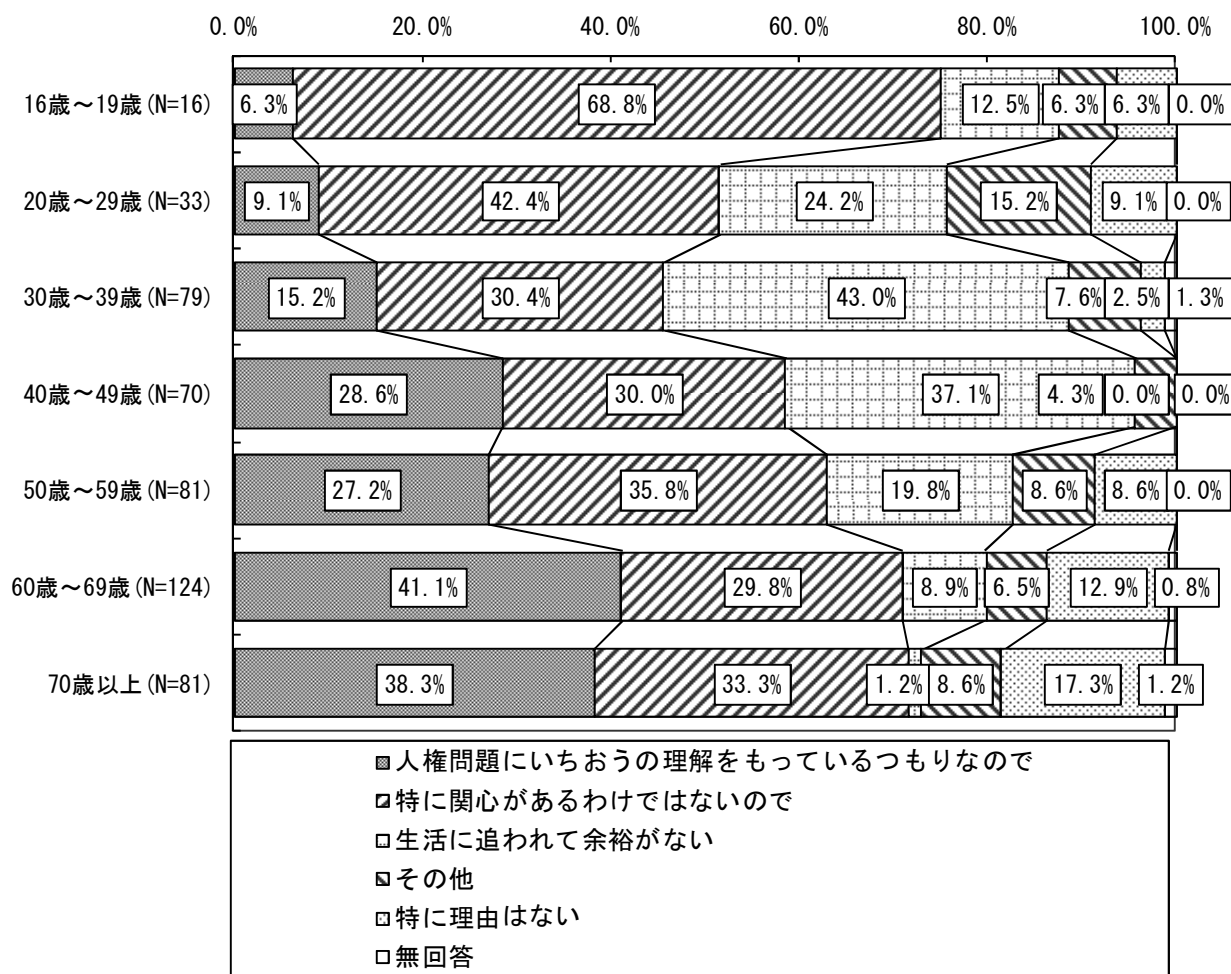


●年齢別にみると、「人権問題にいちおうの理解をもっているつもりなので」は、おおむね年齢階層に伴い増加しており、「16歳～19歳」で6.3%、「20歳代」で9.1%だったものが、「60歳代」で41.1%、「70歳以上」で38.3%となっている。

●「16歳～19歳」や「20歳代」では、「特に関心があるわけではないので」がそれぞれ68.8%、42.4%となり、若年者ほど、関心がないことが学習したくない理由に挙げられている。

●また、「30歳代」や「40歳代」では「生活に追われて余裕がない」が増加しており、子育てなどの自身の家庭生活などがいそがしく余裕がないことが理由として挙がっている。

図表 人権問題理解のための学習をしたくない理由一年齢別

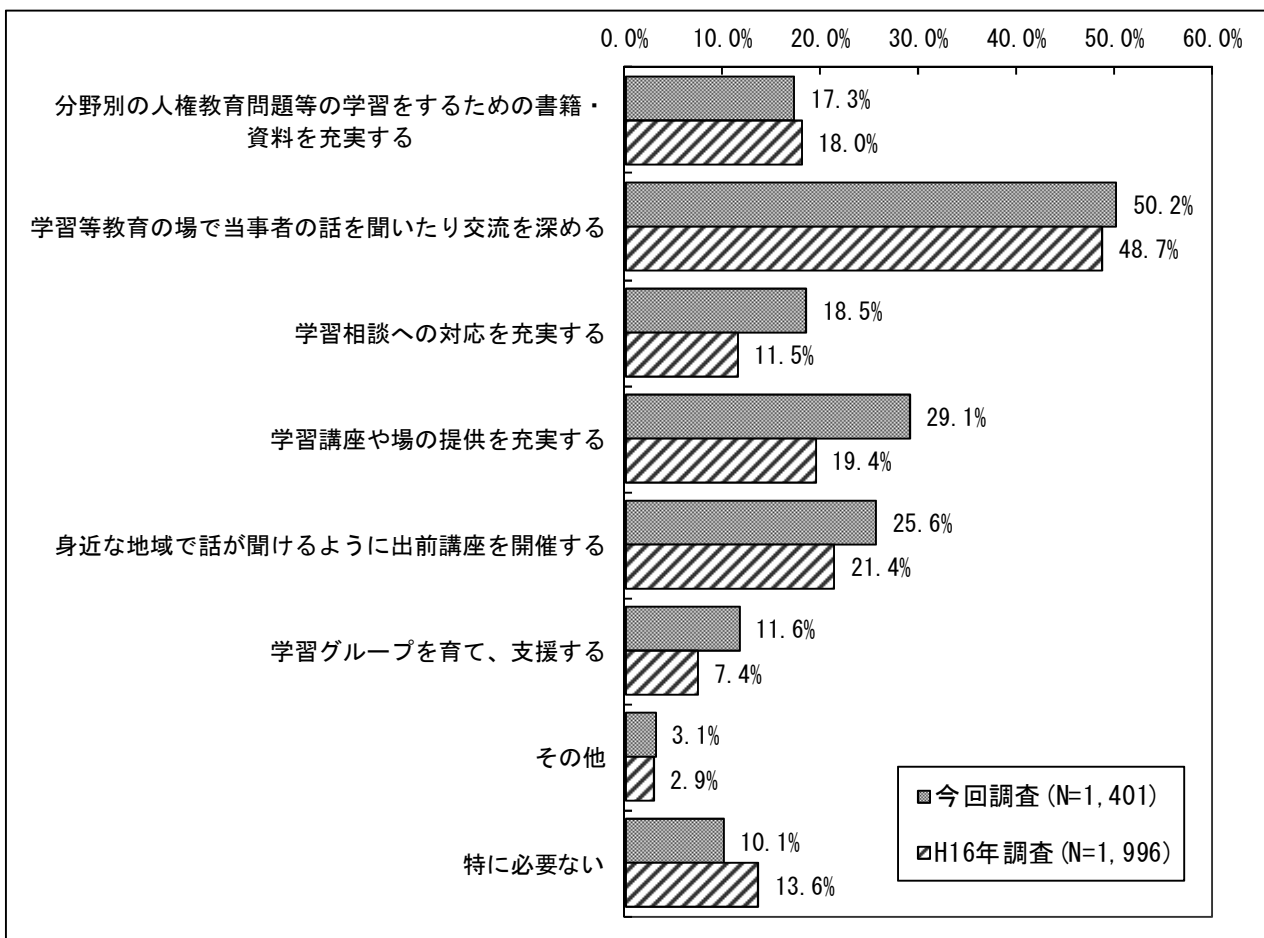


(31) 人権学習を深めるための支援として重要なこと

問 28 人権学習を深めるための支援として特にどのようなことが重要だと思いますか
(主なものを3つまでに○)

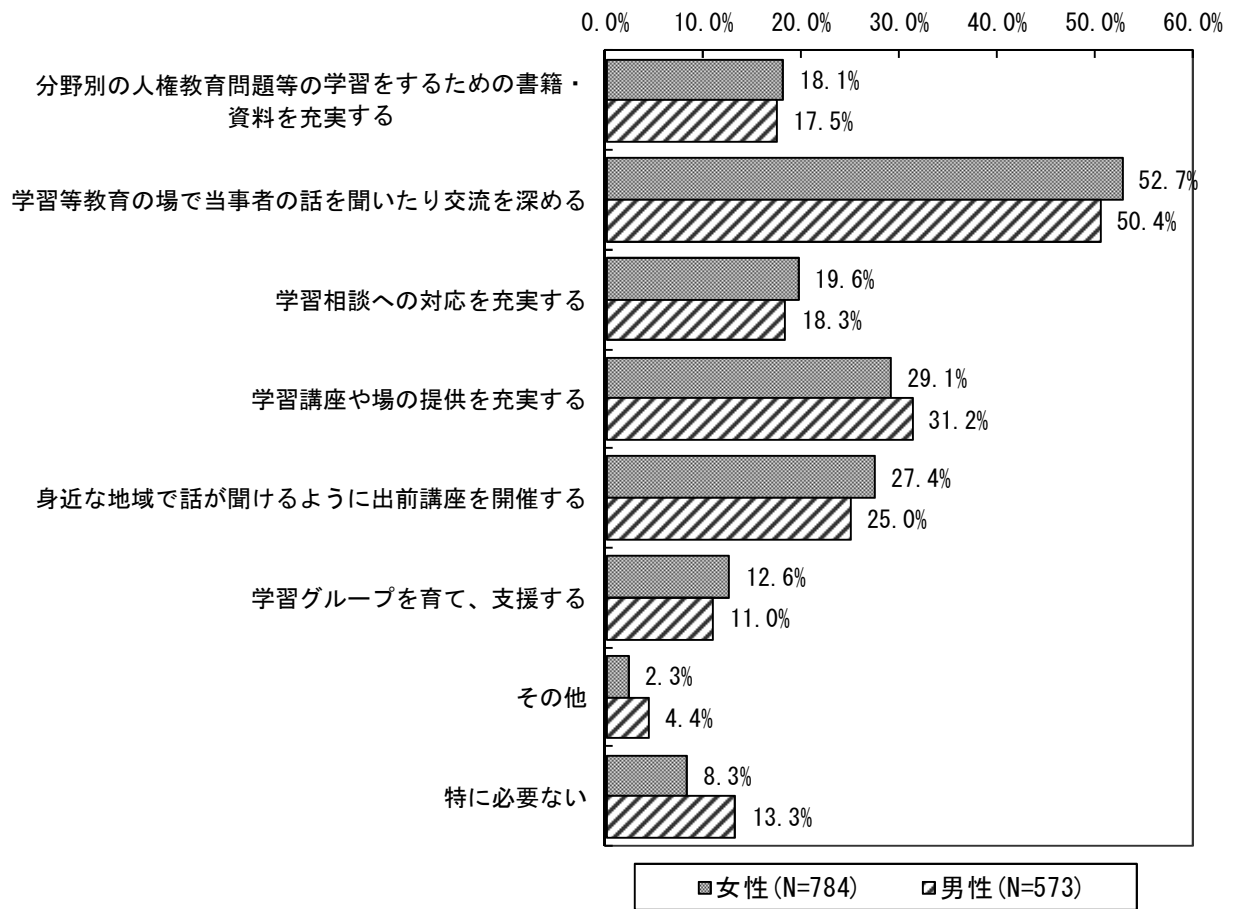
- 人権学習を深めるための支援として重要なこととしては、「学習等教育の場で当事者の話を聞いたり交流を深める」が50.2%で最も多く、次いで「学習講座や場の提供を充実する」が29.1%、「身近な地域で話が聞けるように出前講座を開催する」が25.6%などとなっている。
- 前回調査と比較すると、「特に必要ない」は、前回の13.6%から10.1%と減少しているが、それ以外の項目では、「分野別の人権教育問題等の学習をするための書籍・資料を充実する」以外はいずれも増加している。

図表 人権学習を深めるための支援として重要なこと－経年変化



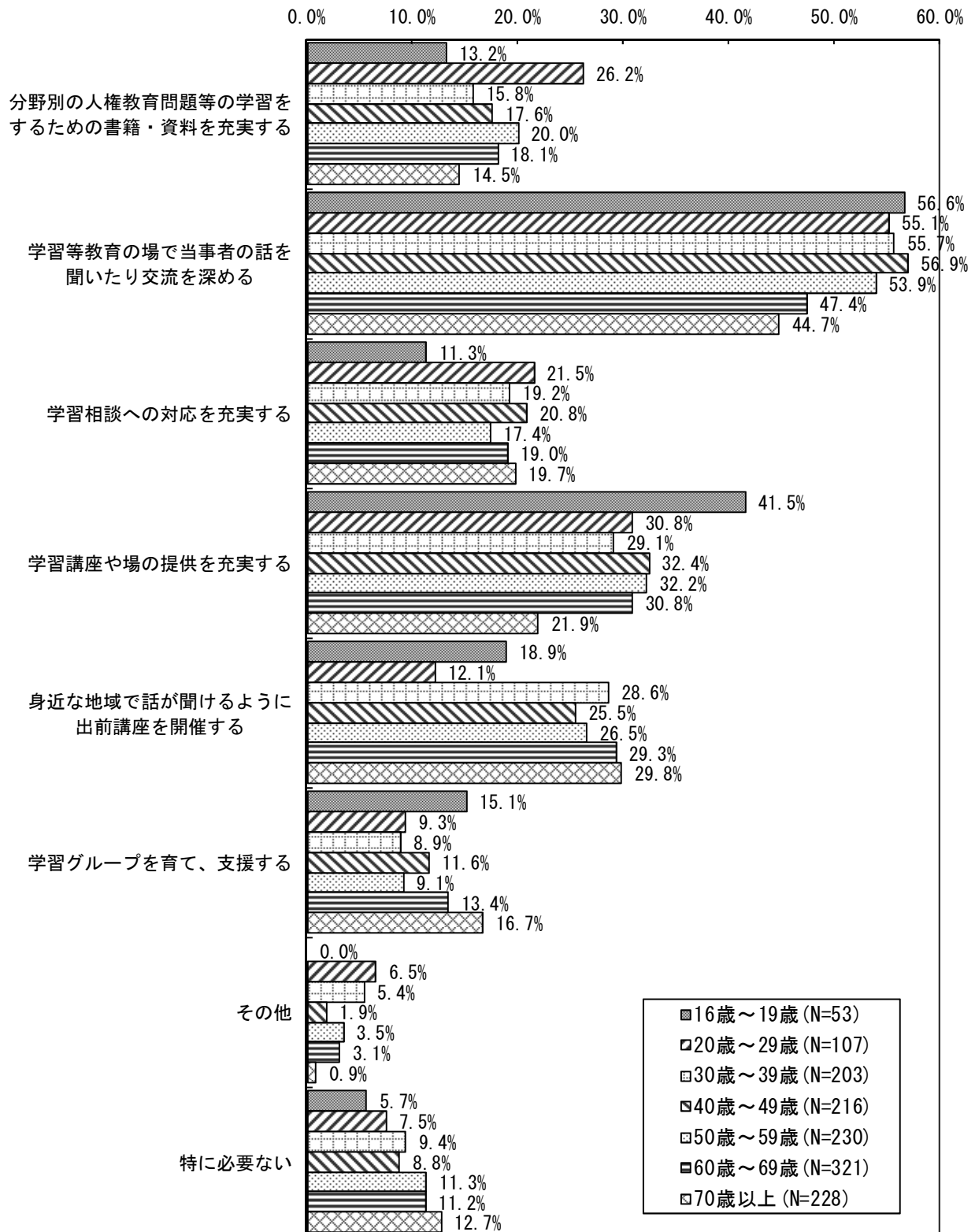
●性別にみると、大きな差異はみられなかった。

図表 人権学習を深めるための支援として重要なこと－性別



●年齢別にみると、「学習等教育の場で当事者の話を聞いたり交流を深める」は、50歳代までに多くなっている。また、「身近な地域で話が聞けるように出前講座を開催する」は、「10歳代」や「20歳代」では、少ないが、30歳代以上で増加している。

図表 人権学習を深めるための支援として重要なこと一年齢別

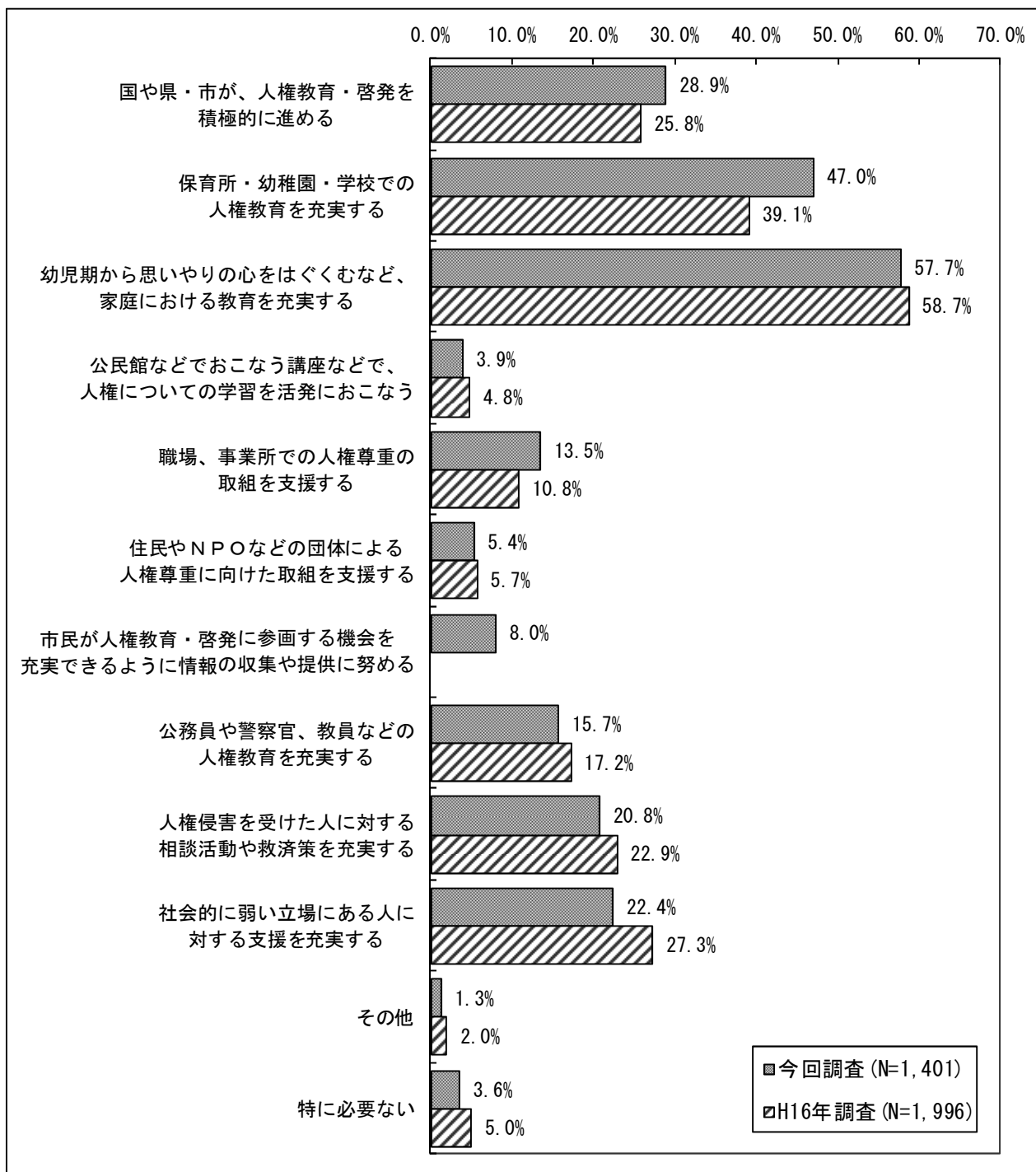


(32) 人権が尊重される社会を実現するために重要な取組

問 29 あなたは、人権が尊重される社会を実現するためには、今後特にどのようなことに取り組んでいくことが重要だと思いますか。（主なもの3つまでに○）

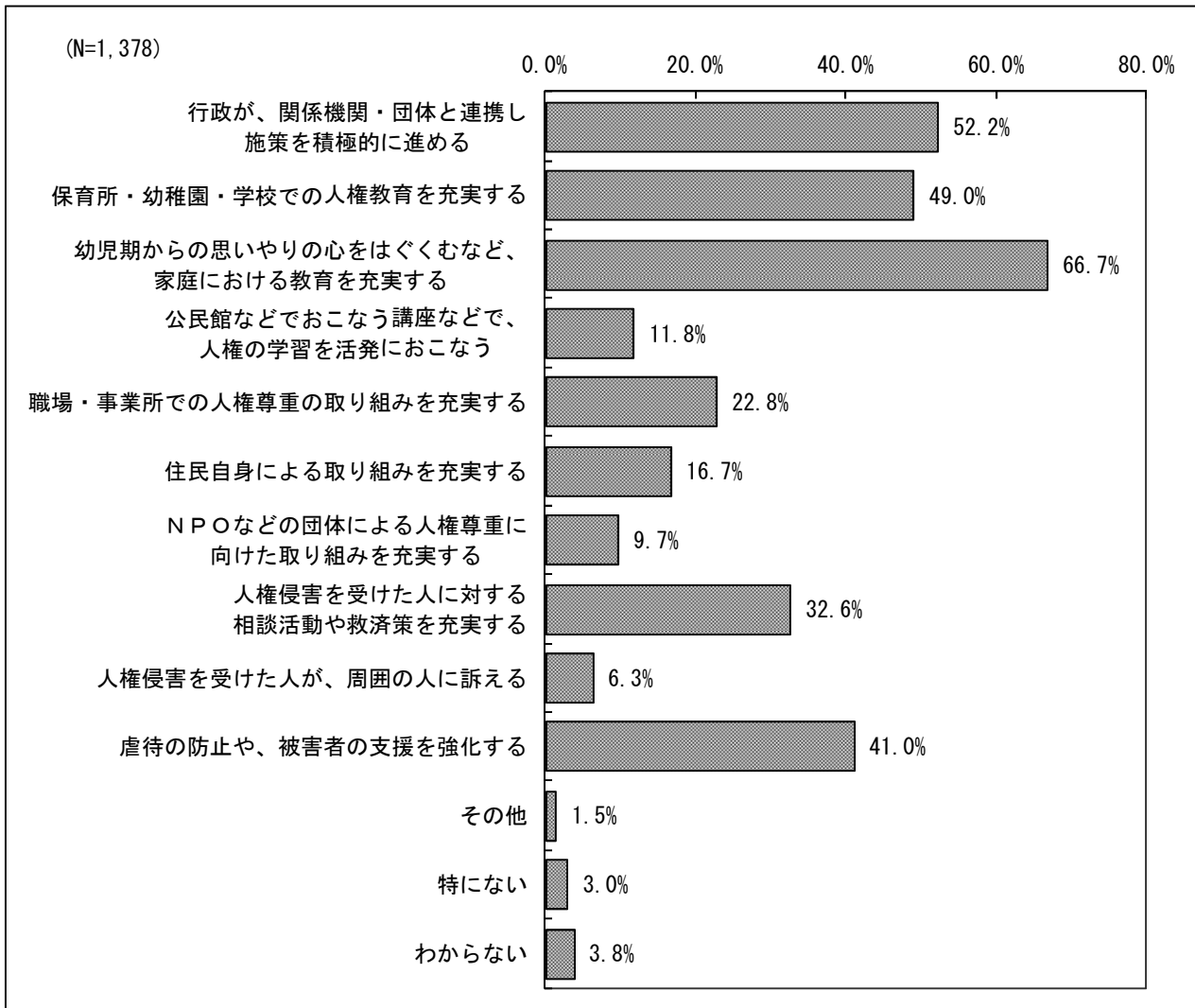
- 人権が尊重される社会を実現するために重要な取組としては、「幼児期から思いやりの心をはぐくむなど、家庭における教育を充実する」が57.7%、「保育所・幼稚園・学校での人権教育を充実する」が47.0%と小さい頃からの継続的な学習が重要と考える人が多い。
- 前回調査と比較すると、「保育所・幼稚園・学校での人権教育を充実する」が前回の39.1%から47.0%と増加しており、幼児期からの教育が重要と認識する人が増加している。

図表 人権が尊重される社会を実現するために重要な取組—経年変化



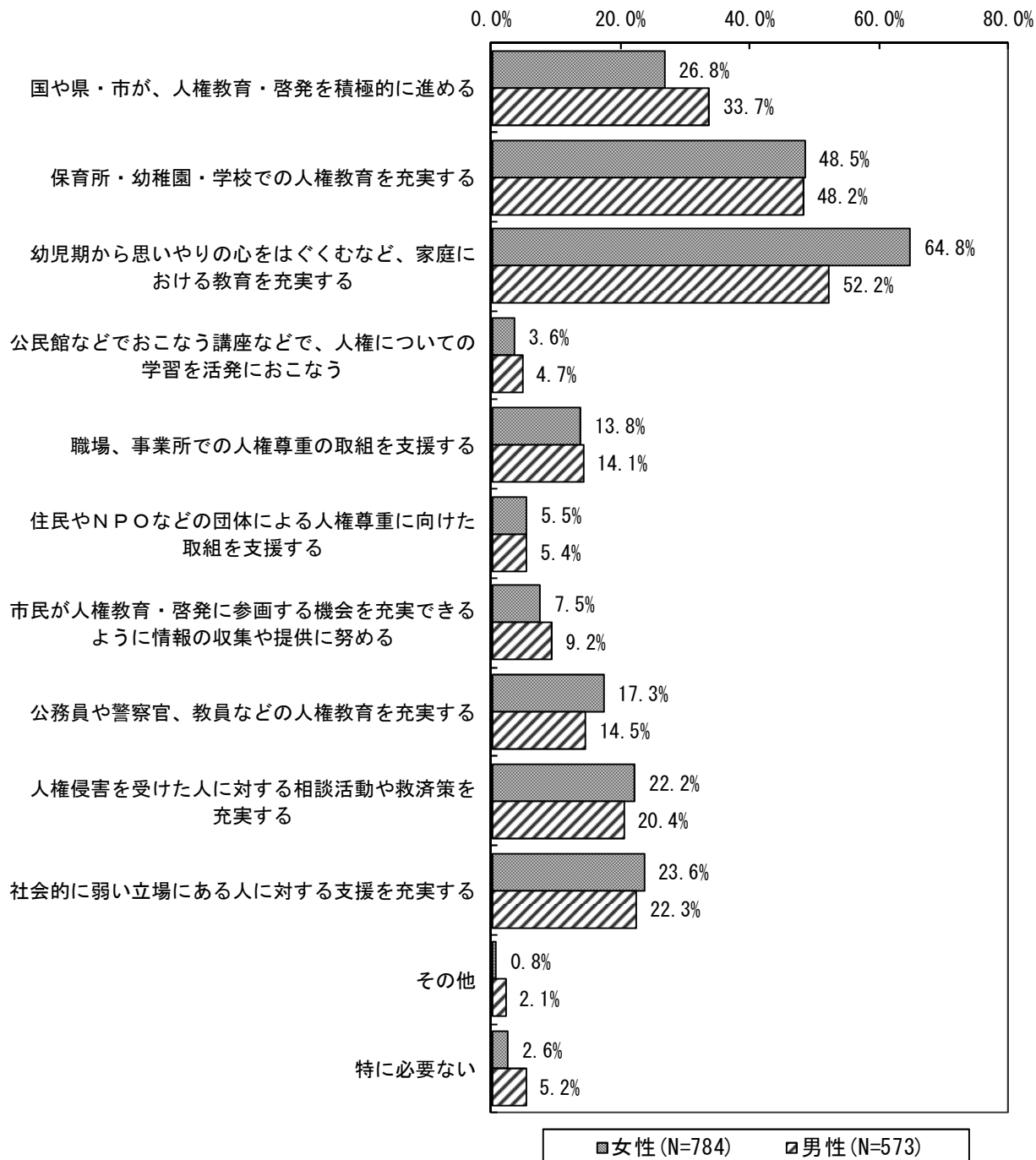
●奈良県人権に関する県民意識調査と比較すると、生駒市調査と同様に「幼児期から思いやりの心をはぐくむなど、家庭における教育を充実する」や「保育所・幼稚園・学校での人権教育を充実する」「行政が、関係機関・団体と連携し施策を積極的に進める」が多くなっている。

図表 (参考) 人権が尊重される社会を実現するために重要な取組
 -平成 20 年度奈良県人権に関する県民意識調査



●性別にみると、大きな差異はみられず、男女とも「幼児期から思いやりの心をはぐくむなど、家庭における教育を充実する」や「保育所・幼稚園・学校での人権教育を充実する」といった意見が多くなっている。

図表 人権が尊重される社会を実現するために重要な取組－性別



●年齢別にみると、大きな差異はみられないが、「職場、事業所での人権尊重（教育・学習）の取組を支援する」が「20歳代から60歳代」で多くなっている。

図表 人権が尊重される社会を実現するために重要な取組一年齢別

	16歳～19歳 (N=53)	20歳～29歳 (N=107)	30歳～39歳 (N=203)	40歳～49歳 (N=216)	50歳～59歳 (N=230)	60歳～69歳 (N=321)	70歳以上 (N=228)
国や県・市が、人権教育・啓発を積極的に進める	34.0%	29.0%	22.2%	34.3%	25.2%	31.5%	33.8%
保育所・幼稚園・学校での人権教育を充実する	62.3%	55.1%	52.7%	52.3%	47.4%	47.7%	36.8%
幼児期から思いやりの心をはぐくむなど、家庭における教育を充実する	45.3%	55.1%	68.5%	56.0%	57.0%	60.7%	61.0%
公民館などでおこなう講座などで、人権についての学習を活発に行う	3.8%	0.9%	3.4%	5.6%	3.0%	4.0%	5.7%
職場、事業所での人権尊重(教育・学習)の取組を支援する	5.7%	19.6%	21.2%	17.1%	15.2%	10.9%	6.6%
住民やNPOなどの団体による人権尊重に向けた取組を支援する	5.7%	1.9%	4.4%	7.4%	3.9%	8.1%	4.4%
市民が人権教育・啓発に参画する機会を充実できるように情報の収集や提供に努める	7.5%	9.3%	4.4%	7.4%	9.1%	7.2%	12.7%
公務員や警察官、教員などの人権教育を充実する	7.5%	20.6%	16.7%	14.4%	17.0%	14.0%	19.7%
人権侵害を受けた人に対する相談活動や救済策を充実する	18.9%	19.6%	22.2%	21.3%	28.3%	22.7%	13.6%
社会的に弱い立場にある人に対する支援を充実する	18.9%	23.4%	18.7%	22.2%	20.0%	26.8%	25.9%
その他	3.8%	0.9%	2.0%	0.9%	2.2%	1.2%	0.0%
特に必要ない	1.9%	0.9%	2.5%	3.7%	4.3%	3.4%	5.7%